

Novell NetWare® 6

www.novell.com

その他のインストールオプション



N

Novell®

法的事項

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容または本書を使用した結果について、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また、本書の商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる黙示の保証も否認し、排除します。また、本書の内容は予告なく変更されることがあります。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのノベル製ソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また、ノベル製ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる黙示の保証も否認し、排除します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

本製品を米国またはカナダから輸出する際には、事前に米国商務省の輸出許可が必要となります。

Copyright © 1993-2001 Novell, Inc. All rights reserved. 本書の一部または全体を無断で複写・転載することは、その形態を問わず禁じます。

米国特許番号 5,157,663; 5,349,642; 5,455,932; 5,553,139; 5,553,143; 5,572,528; 5,594,863; 5,608,903; 5,633,931; 5,652,859; 5,671,414; 5,677,851; 5,692,129; 5,701,459; 5,717,912; 5,758,069; 5,758,344; 5,781,724; 5,781,724; 5,781,733; 5,784,560; 5,787,439; 5,818,936; 5,828,882; 5,832,274; 5,832,275; 5,832,483; 5,832,487; 5,850,565; 5,859,978; 5,870,561; 5,870,739; 5,873,079; 5,878,415; 5,878,434; 5,884,304; 5,893,116; 5,893,118; 5,903,650; 5,903,720; 5,905,860; 5,910,803; 5,913,025; 5,913,209; 5,915,253; 5,925,108; 5,933,503; 5,933,826; 5,946,002; 5,946,467; 5,950,198; 5,956,718; 5,956,745; 5,964,872; 5,974,474; 5,983,223; 5,983,234; 5,987,471; 5,991,771; 5,991,810; 6,002,398; 6,014,667; 6,015,132; 6,016,499; 6,029,247; 6,047,289; 6,052,724; 6,061,743; 6,065,017; 6,094,672; 6,098,090; 6,105,062; 6,105,132; 6,115,039; 6,119,122; 6,144,959; 6,151,688; 6,157,925; 6,167,393; 6,173,289; 6,192,365; 6,216,123; 6,219,652; 6,229,809. 特許未決定。

Novell, Inc.
1800 South Novell Place
Provo, UT 84606
U.S.A.

www.novell.com

その他のインストールオプション
2001年10月

オンラインドキュメント：本製品とその他の Novell 製品のオンラインマニュアルにアクセスする場合や、アップデート版を入手する場合は、<http://www.novell.com/documentation/japanese> を参照してください。

Novell の商標

Internetwork Packet Exchange および IPX は、米国 Novell, Inc. の商標です。

NE2000 は、米国 Novell, Inc. の商標です。

NetWare は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

NetWare Loadable Module および NLM は、米国 Novell, Inc. の商標です。

Novell は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

Novell Client は、米国 Novell, Inc. の商標です。

Novell Directory Services および NDS は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

Novell Distributed Print Services は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における商標であり、NDPS は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

Novell Storage Services は、米国 Novell, Inc. の商標です。

SFT および SFT III は、米国 Novell, Inc. の商標です。

サードパーティの商標

サードパーティ各社とその製品の商標は、所有者であるそれぞれの会社に所属します。

目次

概要	9
NetWare Accelerated Upgrade の使用	9
レスポンスファイルを使用した NetWare インストールの自動化	9
インストールスクリプトを使用した NetWare のインストール	10
マニュアルの表記規則	10
1 NetWare Accelerated Upgrade の使用	11
NetWare Accelerated Upgrade の動作	11
NetWare 6 へのアップグレード	13
ワークステーションを準備する	13
設置サーバを準備する	13
ターゲットサーバを準備する	15
ネットワークを準備する	17
NetWare Accelerated Upgrade を実行する	18
アップグレード後の作業を完了する	20
ディスクドライバの手動指定	21
サーバからサーバへの接続のトラブルシューティング	21
SAP フィルタリングを無効にする	22
認証を受けていないサーバとの接続を解除する	22
ターゲットサーバのゲートパラメータをデフォルトルータ IP アドレスに設定する	22
2 レスポンスファイルを使用した NetWare インストールの自動化	25
レスポンスファイルの作成	26
新しいレスポンスファイルを作成する	26
以前のサーバインストールで使用したファイルを編集する	26
レスポンスファイルの使用	27
サーバインストールの際にレスポンスファイルを使用する	27
コマンドラインでレスポンスファイルを入力する	27
構文	28
NetWare セクションとキー	33
[NWI:Product Information] セクション	33
[NWI:Language] セクション	34
[NWI:Install Options] セクション	35
[NWI:Server Settings] セクション	37
[NWI:Locale] セクション	38
[NWI:Mouse and Video] セクション	40
[NWI:Hardware] セクション	41

[NWI:Excluded From Detection] セクション	45
[NWI:Multi-Processor System] セクション	45
[NWI:Storage Adapter n] セクション	45
[NWI:Storage Device n] セクション	47
[NWI:Network Adapter n] セクション	47
[NWI:Reserved Adapter n] セクション	50
[NWI:Hotplug System] セクション	51
[NWI:NetWare Loadable Module] セクション	51
[NWI:File System] セクション	52
[NWI:Partition n] セクション	53
[NWI:Volume n] セクション	56
[NWI:Misc] セクション	60
[NWI:File Server] セクション	61
[NWI:Protocols] セクション	62
[NWI:TCPIP] セクション	63
[NWI:IPX] セクション	64
[NWI:IPCMD] セクション	65
[NWI:SNMP] セクション	66
[NWI:DNS] セクション	68
[NWI:Host Name] セクション	69
[NWI:Time Zone] セクション	70
[NWI:Time Synchronization] セクション	71
[NWI:NDS] セクション	71
[NWI:License] セクション	75
[NWI:Add to Startup] セクション	77
[NWI:Append To Autoexec.ncf] セクション	78
[NWI:Use NCF Settings] セクション	79
完全自動化インストールの実行	79
[Novell:NOVELL_ROOT:1.0.0] セクション	79
他の製品とサービスのインストールの自動化	81
[Selected Nodes] セクション	82
サーバに複数の製品をインストールする	83
製品キーと値	83
その他のサービス	85
CD 起動とレスポンスファイル	89
インストールスクリプトを利用したインストールのカスタマイズ	89
[NWI:Install Script] セクション	90
ファクトリインストールの実行	91
[NWI:Factory] セクション	92
[Novell:StartupDirectory:1.0.0] セクション	93
[Novell:SYSDirectory:1.0.0] セクション	94
[Novell:ConfigDirectory:1.0.0] セクション	94
[Novell:LANFiles:1.0.0] セクション	95
[Novell:SBDFiles:1.0.0] セクション	95

[Novell:portalzip:1.0.0] セクション	96
[Novell:Rconjzip:1.0.0] セクション	96
[Novell:Perl5zip:1.0.0] セクション	97
[Novell:beanszip:1.0.0] セクション	97
[Novell:nscriptzip:1.0.0] セクション	98
[Novell:scripteszip:1.0.0] セクション	98
[Novell:console1zip:1.0.0] セクション	99
[Novell:ldapzip:1.0.0] セクション	99
[Novell:wanmanzip:1.0.0] セクション	100
インストールコマンドラインオプション	100
3 NewWare のインストールスクリプト	103
NetWare インストールスクリプトの使用	103
スクリプトファイル	103
スクリプトファイルを起動する	104
NetWare 6 でスクリプトを使用する	104
記述子とコマンド	105
構文規則	105
コメント	106
記述子	106
コマンド	121
外部コマンド	127
バージョン 2.10 外部コマンドの互換性	127
外部コマンドの構文	128
コマンド	128
外部コマンドのプログラミングインタフェース	157
ICMDSetVar	157
ICMDGetVar	158
外部コマンド変数の置き換え	158
例	160
インストール NLM コマンドラインオプション	161
NetWare インストールのためにユーザが記述するスイッチ	161
Script Writer のインストールに役立つスイッチ	161
その他のスイッチ	162
NetWare 4.1 リモートインストールラップ	163
各バージョンで利用できる NetWare インストールコマンド	164
NetWare インストールコマンド	164
NetWare 外部インストールコマンド	165

概要

ここでは、NetWare[®] サーバのアップグレードおよびインストールに役立つカスタムオプションについて説明します。

NetWare Accelerated Upgrade の使用

NetWare Accelerated Upgrade は Windows* クライアントワークステーションから実行できるため、直接サーバコンソール上で操作を行う必要はありません。NetWare Accelerated Upgrade は標準のインストール処理よりも高速ですが、追加のネットワーク製品、ライセンスサービス、またはライセンス証明書はインストールされません。

11 ページの第 1 章「NetWare Accelerated Upgrade の使用」を参照してください。

レスポンスファイルを使用したNetWareインストールの自動化

レスポンスファイルを使用すると、NetWare オペレーティングシステムソフトウェアをより簡単に柔軟性を持ってインストールできます。サーバのグラフィックインストールでレスポンスファイルを使用すると、次のことができます。

- ◆ 特定のデフォルトを設定したり、表示したりする
- ◆ インストールのセクション全体をスキップする
- ◆ サーバのインストールプロセス全体を自動化する

レスポンスファイルは、セクションとキーを含むテキストファイルです (Windows の .INI ファイルに似ています)。レスポンスファイルは、任意の ASCII テキストエディタを使用して作成できます。レスポンスファイルを使用すると、NetWare サーバインストールプログラムはレスポンスファイルから直接インストールパラメータを読み込み、デフォルトのインストール設定値と置き換えます。

25 ページの第 2 章「レスポンスファイルを使用した NetWare インストールの自動化」を参照してください。

インストールスクリプトを使用した NetWare のインストール

NetWare インストールスクリプトを使用すると、次のことができます。

- ◆ NetWare のインストールプロセスを変更または拡張する。
- ◆ オペレーティングシステムをインストールした後で、NetWare サーバに追加の製品またはサービスをインストールする。

103 ページの第 3 章「NewWare のインストールスクリプト」を参照してください。

マニュアルの表記規則

このマニュアルでは、不等号 (>) を使用して、操作手順の動作、およびクロスリファレンスパス内の項目を区切ります。

また、「®」、「™」などの商標記号は、Novell の商標を示します。アスタリスク (*) はサードパーティの商標を示します。

1

NetWare Accelerated Upgrade の使用

NetWare[®] Accelerated Upgrade ユーティリティは、NetWare 4.11、NetWare 4.2、または NetWare 5 のサーバを NetWare 6 にアップグレードするために使用できる高度なユーティリティです。NetWare Accelerated Upgrade の使用者としては、NetWare ネットワークのトラブルシューティングおよびインストールに関する技能を持つネットワーク管理者が想定されています。

警告：NetWare Accelerated Upgrade を使用する前に、すべてのデータをバックアップしてください。NetWare Accelerated Upgrade を使用すると複数のサーバをアップグレードするのに必要な時間を短縮できますが、使用には注意が必要です。アップグレードが失敗した場合、サーバを元の設定に戻したり、トラスティ割り当てを元に戻したりするバックアウト手順はありません。

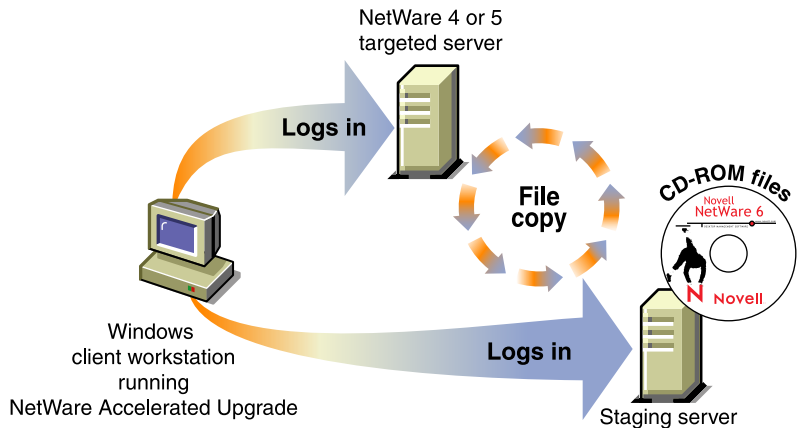
NetWare Accelerated Upgrade を使用すると、次の 2 つの利点があります。

- ◆ Windows* クライアントワークステーションで動作するため、直接サーバコンソール上で操作を行う必要がありません。また、NetWare Accelerated Upgrade のスクリプトファイルをカスタマイズすることもできます。それにより、NetWare 6 のインストールを柔軟にカスタマイズできます。
- ◆ NetWare Accelerated Upgrade を使用すると標準のインストールプロセスよりも作業が短時間で済みますが、追加のネットワーク製品やライセンス許可証はインストールされません。

NetWare Accelerated Upgrade の動作

NetWare Accelerated Upgrade を使用するには、Windows クライアントワークステーション、設置サーバ、およびアップグレードのターゲットとなる NetWare 4 または NetWare 5 のサーバが必要です。

設置サーバには、NetWare 6 オペレーティングシステム CD に含まれるファイルのコピーが保持されます。この 1 つの場所から、すべてのターゲットサーバをアップグレードできます。



NetWare 6 オペレーティングシステム CD のファイルが設置サーバにコピーされた後で、Windows ワークステーションにログインし、NetWare 6 オペレーティングシステム CD のルートにある NetWare Accelerated Upgrade ユーティリティ (ACCUPG.EXE) を起動します。NetWare Accelerated Upgrade が起動したら、ターゲットサーバと設置サーバにログインします。

アップグレードの際に、NetWare Accelerated Upgrade によってターゲットサーバの既存のプロパティ (ディレクトリサービスのバージョンや CLIB のバージョンなど) が、各プロパティの最低アップグレード要件と比較されます。

最低要件を満たした場合、NetWare Accelerated Upgrade は設置サーバからターゲットサーバに NetWare 6 CD のファイルをコピーします。ファイルがコピーされた後、ターゲットサーバが再起動され、NetWare 6 サーバのアップグレードが完了します。

サーバのアップグレードを開始する前に、次のソフトウェアが手元にあることを確認してください。

- ◆ NetWare 6 オペレーティングシステム CD
- ◆ 各サーバに対しての NetWare 6 ライセンス / 暗号化フロッピーディスク。また、MLA がない場合は、さらに 5 つの接続が必要です。

NetWare 6 へのアップグレード

NetWare Accelerated Upgrade を実行するには、次の作業を行います。

1. ワークステーションを準備する (13 ページ)
2. 設置サーバを準備する (13 ページ)
3. ネットワークを準備する (17 ページ)
4. ターゲットサーバを準備する (15 ページ)
5. NetWare Accelerated Upgrade を実行する (18 ページ)
6. アップグレード後の作業を完了する (20 ページ)

ワークステーションを準備する

- 50MB 以上の使用可能なディスク容量がある Windows 95/98、Windows NT*、Windows 2000、または Windows ME ワークステーション。
 - ◆ Windows 95/98 および Windows ME ワークステーションでは、Novell® Client™ バージョン 3.3 以降および Support Pack 1 以降が動作している必要があります。
 - ◆ Windows NT および Windows 2000 ワークステーションでは、Novell Client for Windows バージョン 4.8 以降および Support Pack 1 以降が動作している必要があります。
- PS/2* またはシリアルマウスを推奨 (必須ではありません)

次のセクション「[設置サーバを準備する](#)」に進んでください。

設置サーバを準備する

設置サーバには、NetWare 6 オペレーティングシステム CD に含まれるファイルのコピーが保持されます。この 1 つの場所から、すべてのターゲットサーバをアップグレードできます。設置サーバには、アップグレードを予定しているサーバおよび NetWare Accelerated Upgrade を実行するクライアントワークステーションを除く、任意のサーバを使用できます。

- 1 次のいずれかを実行します。
 - ◆ NetWare 6 オペレーティングシステム CD のファイルを設置サーバ上のボリュームにコピーします。すべてのターゲットサーバが設置サーバおよびクライアントワークステーションにアクセスできることを確認してください。

- ◆ NetWare 6 オペレーティングシステム CD を設置サーバ上のボリュームとしてマウントします。
- 2** (状況によって実行)NICI がインストールされていないターゲットサーバをアップグレードする場合は、NetWare 6 NICI ファイルをターゲットサーバにコピーします。次のいずれかを実行します。
- ◆ **13 ページの手順 1** で NetWare 6 CD のファイルをコピーした場合は、コピーした NetWare 6 オペレーティングシステム CD のルートに License という名前のディレクトリを作成し、NetWare 6 ライセンス / 暗号化フロッピーディスクの #NFK ファイルを新しく作成した License ディレクトリにコピーします。
 - ◆ NetWare 6 オペレーティングシステム CD をマウントした場合は、#NFK ファイルの名前を NICIFK (拡張子は不要) に変更してから、NICI がインストールされていないすべてのアップグレード対象のターゲットサーバ上の SYS:SYSTEM ディレクトリに #NFK をコピーします。
- 3** (オプション) ディスクドライバを手動で指定します。
- 推奨されてはいませんが、NetWare 6 オペレーティングシステム CD に含まれていないディスクドライバをロードしたり、NetWare Accelerated Upgrade の実行中に行われるハードウェアの自動検出をスキップしたりできます。詳細については、**21 ページの「ディスクドライバの手動指定」**を参照してください。
- 4** (オプション) NetWare Accelerated Upgrade スクリプトファイルをカスタマイズします。

警告: インストールプロセスをカスタマイズすると、NetWare 6 のインストールに影響が出る可能性があります。その結果、アップグレードが失敗し、サーバが使用できなくなる場合があります。

スクリプトファイルをカスタマイズすることにより、メニューオプションを追加したり、NetWare 6 インストールの標準機能ではない追加のソフトウェアやパッチをインストールしたりできます。

スクリプトファイルの使い方の詳細については、[Novell Developer Net の Web サイト \(http://developer.novell.com/research/completearchive.htm\)](http://developer.novell.com/research/completearchive.htm) の「Upgrading an Enterprise Using the NetWare Accelerated Upgrade」(AppNotes、1999 年 4 月)を参照してください。

ソースサーバの準備ができれば、次のセクション「**ターゲットサーバを準備する**」に進みます。

ターゲットサーバを準備する

ターゲットサーバは、NetWare 6 にアップグレードする NetWare 4 または NetWare 5 のサーバです。ターゲットサーバが次に示す最低要件を満たしていることを確認してください。

警告：ツリー内の最初のサーバを NetWare 6 にアップグレードする場合は、NetWare Accelerated Upgrade を使用しないでください。NetWare Accelerated Upgrade を使用するには、NetWare 6 が動作しているサーバがツリー内にすでに存在する必要があります。NetWare 6 が動作しているサーバがない場合は、ツリー内の 1 つのサーバに対してインプレースアップグレードを実行してから、NetWare Accelerated Upgrade を使用してツリー内の他のサーバをアップグレードします。

- Pentium* Pro または Pentium II 以上のプロセッサと 180MB の RAM を搭載したサーバクラス PC。512MB の RAM を推奨。

ヒント：180MB は最低要件です。アップグレード後に追加の製品をインストールする予定がある場合は、それらの製品のための追加のメモリ要件も考慮する必要があります。

- ターゲットサーバに十分なディスク容量があることを確認します。
 - ◆ DOS パーティション上に 30MB の使用可能なディスク容量。DOS パーティションの推奨合計サイズは 100MB です。
 - ◆ ボリューム SYS: 上に 1GB 以上の使用可能なディスク容量。ただし、ボリューム SYS: の推奨合計サイズは 2GB です。
- (オプション) スクリプトファイルを使用してサーバをアップグレードする場合、クライアントワークステーションからターゲットサーバのサーバコンソールを表示してアクセスするときは、ターゲットサーバ上に RSPX プログラムと REMOTE NLM™ プログラム (IPX™ プロトコルの場合)、または RCONJAG6.NLM プログラム (IP プロトコルの場合) をロードします。
- (状況によって実行) ターゲットサーバで ZENworks™ for Servers 2 が動作している場合は、サーバをアップグレードする前にこのアプリケーションをアンロードする必要があります。ZENworks によるサーバのアップグレードの詳細については、『ZENworks for Server 2 Installation and Setup Guide (<http://www.novell.com/documentation/lg/zfs2/index.html>)』 > 「Installing and Setting Up Management and Monitoring Services」 > 「Setting Up Management and Monitoring」 > 「Starting and Stopping Services」を参照してください。

Policy and Distribution Services を停止するには、次の操作を実行します。

- ◆ NetWare サーバのサーバコンソールで「CTRL/ESC」と入力し、現在動作しているプロセスのリストを表示します。
- ◆ リストから Distributor を選択します。

- ◆ Distributor コンソールのプロンプトで「Exit」と入力します。
- ◆ リストから Subscriber を選択します。
- ◆ Subscriber コンソールのプロンプトで「Exit」と入力します。
- ◆ リストから ZENworks を選択します。
- ◆ ZENworks for Servers コンソールのプロンプトで「Exit」と入力します。
- ◆ リストから Remote Web Console を選択します。
- ◆ Remote Web Console のプロンプトで「Exit」と入力します。

NetWare 4 または NetWare 5 からのアップグレードに関して、NetWare Accelerated Upgrade がサポートしていない手順を次の表に示します。

表 1 NetWare 4 または NetWare 5 のターゲットサーバをアップグレードするときにサポートされていない手順

アップグレード時にサポートされていない手順	推奨される手順
アップグレード時の IP プロトコルの追加	INETCFG などの NetWare 6 ユーティリティを使用してアップグレード後に IP プロトコルを追加するか、または NetWare 6 インストールプログラムを使用してアップグレードします。

ハードウェア要件が満たされている場合は、次の手順を実行してターゲットサーバをアップグレード用に準備します。

- 1 最新の NetWare Support Pack を使用してターゲットサーバを更新します。

Support Pack は、Novell のサポート Web サイト (<http://support-j.novell.co.jp/>) で入手できます。

- ◆ NetWare 4.11 および NetWare 4.2 の場合は、NetWare 4 Support Pack 8 (IWSP6A.EXE) 以降が必要です。
- ◆ NetWare 5.0 の場合は、NetWare 5 Support Pack 6 以降が必要です。
- ◆ NetWare 5.1 の場合は、NetWare 5 Support Pack 2 以降が必要です。

- 2 (状況によって実行)NSS ボリュームを使用して NDS[®]7 が動作しているマルチサーバツリー内のサーバをアップグレードする場合は、次の操作を実行します。

インプレースアップグレードの方法については、『NetWare 6 概要とインストールガイド』の第3章「NetWare 6 へのアップグレード」を参照してください。

シングルサーバツリーに属するサーバを NetWare 6 にアップグレードする場合は、NetWare Accelerated Upgrade を利用できます。ただし、アップグレード後に手動で NDS スキーマを拡張する必要があります。NDS スキーマを自動的にアップデートしたい場合には、インプレースアップグレードを行うことをお勧めします。

次のセクション「NetWare Accelerated Upgrade を実行する」に進んでください。

NetWare Accelerated Upgrade を実行する

- 1 ワークステーションから設置サーバにログインし、NetWare 6 オペレーティングシステム CD のルートディレクトリにある NetWare Accelerated Upgrade 実行ファイル (ACCUPG.EXE) をダブルクリックします。
- 2 [Welcome] 画面の説明を読み、右矢印をクリックします。
- 3 設置サーバにコピーまたはマウントした NetWare 6 ファイルの場所を入力し、右矢印をクリックします。
- 4 設置サーバへのパスワードを入力し(設置サーバには NetWare 6 CD のファイルがコピーされています)、[OK] をクリックします。
- 5 リストからターゲットサーバを選択し、右矢印をクリックします。
- 6 プロンプトが表示されたら、ユーザ名、パスワード、ツリー名、そしてターゲットサーバのコンテキストを入力し、[OK] をクリックします。
- 7 右矢印をクリックします。

ここで NetWare Accelerated Upgrade は、選択したサーバが NetWare 6 のソフトウェアおよびハードウェア要件を満たしているかどうか確認するために、ターゲットサーバのチェックを実行します。この処理には数分かかる場合があります。

- 8 重要要件画面をよく見て、ターゲットサーバが NetWare 6 のサーバ要件を満たしていることを確認します。

注: 15 ページの「ターゲットサーバを準備する」のリストにあるサポートパックが適用されていれば、サーバ要件は問題なく満たされます。

リストの項目には、重要でない要件もあります。しかし次の要件については、先に進む前に満たされていることを必ず確認してください。

- ◆ NetWare サーバのバージョン
- ◆ ディレクトリサービスのバージョン
- ◆ CLIB のバージョン
- ◆ HCSS がロードされていないこと (NetWare 4 のみ)
- ◆ SFT™ III™ サーバが使用されていないこと (NetWare 4 のみ)
- ◆ サポートされていないドライバがアンロードされていること (NetWare 4 のみ)

ターゲットサーバが重要な最低要件を満たしていない場合、そのサーバプロパティは赤く表示されます。重要な最低要件をすべて満たさなければ、NetWare Accelerated Upgrade は次のステップに進みません。

重要 : NICI ファイルをアップデートするように指示された場合は、次に進む前に **14 ページの手順 2** の指示に従ってください。

9 アップグレードの際に NetWare Accelerated Upgrade に自動的に実行させたいオプションをすべてオンにし、右矢印をクリックします。

- ◆ アップグレードの完了後、ターゲットサーバを再起動する。
このオプションをオンにしても、ファイルのコピーが完了した後に手動でターゲットサーバを再起動する必要が生じる場合もあります。
- ◆ ターゲットサーバの既存のドライバを、NetWare 6 の LAN およびディスクドライバにアップデートする。

自動検出の間、STARTUP.NCF ファイルは STARTUP.AUP にリネームされています。そのため NetWare Accelerated Upgrade は元の STARTUP.NCF ファイルを復元した後に、NetWare 6 でサポートされる適切な .HAM および .CDM ドライバをロードします。

元の STARTUP.NCF ファイルや AUTOEXEC.NCF ファイルに、現在ロードされているデバイスのデバイスドライバがない場合、ファイル中の LOAD 行は削除されるか新しいファイルにコピーされた後、コメントアウトされます。

警告 : ターゲットサーバに NetWare 6 と互換性のないディスクドライバがあった場合、ハードウェア自動検出プロセスでこのドライバを更新できないため、サーバをアップグレードできなくなります。これを避けるには、アップグレードを完了する前に NetWare 6 と互換性のないドライバをすべてアンロードしてください。NetWare Accelerated Upgrade は、NetWare 6 をサポートしないドライバを自動的に検出し、適切な処置をするように警告します。

- ◆ ターゲットサーバにある、サポートされていない DOS ユーティリティを削除する (NetWare 4 サーバのみ)。

- 10 NetWare Accelerated Upgrade によりインストールされる製品のリストを確認し、右矢印をクリックします。

矢印をクリックした後、[Progress] 画面が現れるまで数分間かかることもあります。

- 11 [Progress] 画面を監視し、NetWare 6 オペレーティングシステムのファイルがターゲットサーバにコピーされたら、[Close] をクリックします。

ターゲットサーバは NetWare 6 サーバにアップグレードされました。NetWare Accelerated Upgrade では、アップグレードの際に他のネットワーク製品はインストールされません。他のネットワーク製品をインストールするには、21 ページの「他のネットワーク製品をインストールする」を参照してください。

「アップグレード後の作業を完了する」に進みます。

アップグレード後の作業を完了する

ライセンス許可証をインストールする

NetWare Accelerated Upgrade ユーティリティはライセンス許可証をインストールしないため、NetWare Web Manager 経由で iManage を使用し、新しく NetWare 6 にアップグレードしたサーバにライセンス許可証をインストールします。

注: ライセンス許可証を NDS ツリーの [ROOT] にインストールしているか、ユーザが MLA アカウントを持っている場合、ライセンスを新しくインストールする必要はありません。

- 1 Web ブラウザに次の URL を入力し、NetWare Web Manager を表示させます。

`https://nw6serveripaddress:portnumber`

- 2 iManage アイコンをクリックします。
- 3 [License Management] > [Install Licenses] の順にクリックします。
- 4 画面上の指示に従います。

他のネットワーク製品をインストールする

NetWare Accelerated Upgrade では、他のネットワーク製品はインストールされません。ネットワーク製品を追加してインストールするには、次の2つの方法があります。

- ◆ サーバトップの Novell アイコンをクリックし、サーバコンソールからインストールする。
- ◆ Deployment Manager(NetWare 6 オペレーティングシステム CD のルートディレクトリにあります)を使用する。

ディスクドライバの手動指定

ハードウェア検出の動作や、NDS データベースのアップグレードを変更する必要がある場合もあります。HWDETECT.ICS スクリプトファイルの中にある、HDETECT.NLM をロードする行のオプション -U を -MU に置き換えることで、アップグレードの際にハードウェアデバイスを確認したり、新たなハードウェアを追加したりできます。

アップグレードの際にハードウェアデバイスの確認や追加をするには、ターゲットサーバのサーバコンソールを直接操作する必要があります。

NetWare 6 オペレーティングシステム CD に収録されていないディスクドライバをロードする場合にも、この手順を実行します。この手順は、複数のサーバで同じハードウェアをアップグレードする場合にも有効です。手動で特定のドライバを選択した場合は、¥STARTUP ディレクトリを作成し、その中にディスクドライバと STARTUP.NCF ファイルを収めておく必要があります。

- 1 NetWare 6 オペレーティングシステム CD のファイルを設置サーバ上のボリュームにコピーします。

重要: アップグレードするターゲットサーバやクライアントワークステーションには、ファイルをコピーしないでください。

- 2 ターゲットサーバが設置サーバに接続できることを確認します。
- 3 必要な .HAM および .CDM ディスクドライバを、設置サーバの ¥STARTUP ディレクトリにコピーします。
- 4 17 ページの「ネットワークを準備する」に進みます。

サーバからサーバへの接続のトラブルシューティング

NetWare Accelerated Upgrade の実行中に、サーバからサーバへの接続ができなくなった場合には、次の解決方法を試してください。

SAP フィルタリングを無効にする

- 1 ターゲットサーバのサーバコンソールで、次のように入力します。

INETCFG

- 2 [Protocols] > [IPX] > [Filtering Support] の順に選択します。

SAP フィルタリングを無効にできない場合は、クライアントワークステーションがターゲットサーバおよび設置サーバと同じ LAN セグメントに属していることを確認してください。

認証を受けていないサーバとの接続を解除する

- 1 Windows 95/98 または Windows NT クライアントで、赤色の N を右クリックします。
- 2 [NetWare Connections] をクリックします。
- 3 認証を受けていないサーバを選択します。
- 4 [Detach] をクリックします。

この操作を終えてもターゲットサーバとの通信に問題が生じる場合には、クライアントワークステーションを再起動し、もう一度ターゲットサーバにログインしてください。

ターゲットサーバのゲートパラメータをデフォルトルータ IP アドレスに設定する

NetWare 4 ターゲットサーバの場合

- 1 サーバコンソールで、次のように入力します。

LOAD INSTALL

- 2 [NCF Files Options] > [Edit AUTOEXEC.NCF File] の順に選択します。
- 3 AUTOEXEC.NCF ファイルに、次の行を追加します。

LOAD TCP/IP

- 4 ネットワークボードをロードしてスロット、フレーム、およびネットワークボード名を指定するコマンドを追加します (AUTOEXEC.NCF ファイルにこの情報を記載しておく必要があります)。

たとえば、スロット 3 に NE2000™ ネットワークボード (Ethernet_II フレーム) を挿入している場合、次のようなコマンドを追加します。

LOAD NE2000 Slot=3 Frame=ethernet_II Name=NE2000

- 5 ネットワークボードとその IP アドレス、マスクアドレス、そしてゲートパラメータ (ターゲットサーバのデフォルトルータ IP アドレスに設定) をロードするコマンドを追加します。

たとえばデフォルトルータ IP アドレスが 137.33.172.1 の NE2000 ネットワークボードの場合は、次のようなコマンドになります。

```
LOAD NE2000 addr=137.65.178.1 mask=255.255.255.0  
gate=137.33.172.1
```

- 6 ネットワークボードに IP をバインドするコマンドを追加します。次の形式を使用します。

```
BIND IP network_board_name
```

- 7 次に、ターゲットサーバの IP アドレス、マスクアドレス、およびゲートパラメータを、BIND IP コマンドラインに追加します。

NetWare 5 ターゲットサーバの場合

- 1 サーバコンソールで、次のように入力します。

```
NWCONFIG
```

- 2 [NCF Files Options] > [Edit AUTOEXEC.NCF File] の順に選択します。

- 3 BIND IP コマンドラインで、マスクアドレスの後にゲートパラメータをターゲットサーバのデフォルトルータ IP アドレスに設定します。

たとえばデフォルトルータ IP アドレスが 137.65.178.1 であれば、BIND IP コマンドラインでマスクアドレスの後に次のように入力します。

```
gate=137.65.178.1
```


2

レスポンスファイルを使用した NetWare インストールの自動化

レスポンスファイルを使用すると、NetWare[®] オペレーティングシステムのソフトウェアをより簡単に、より柔軟にインストールすることができます。サーバのグラフィックインストールでレスポンスファイルを使用すると、次のことができます。

- ◆ 特定のデフォルトを設定したり、表示したりする。
- ◆ インストールのセクション全体をスキップする。
- ◆ サーバのインストールプロセス全体を自動化する。

レスポンスファイルは、セクションとキーを含むテキストファイルです (Windows の .INI ファイルに似ています)。レスポンスファイルはどのような ASCII エディタでも作成できます。

レスポンスファイルを使用すると、NetWare サーバインストールプログラムはレスポンスファイルから直接インストールパラメータを読み込み、デフォルトのインストール設定値と置き換えます。値が現れるとインストールプログラムはその値を受け入れ、次のインストール画面に進みます。インストールプログラムは必要な情報をすべてレスポンスファイルから取得するため、すべてのインストール画面をスキップすることもできます。

さまざまなユーザやベンダにとって、レスポンスファイルを使用した NetWare のインストールは非常に便利な機能です。企業内でサーバハードウェアの標準仕様を定めている Novell[®] ユーザであれば、レスポンスファイルを使用して複数の NetWare サーバをすぐに設定することができます。レスポンスファイルを使用して、NetWare インストールの一部の設定項目をあらかじめ設定しておき、残りの設定をローカルの管理者に任せることもできます。代理店や OEM 業者にとっても、顧客にサーバを出荷する前に NetWare をプレインストールする際に、レスポンスファイルは有効です。

この章では、次の説明を行います。

- ◆ 26 ページの「レスポンスファイルの作成」
- ◆ 27 ページの「レスポンスファイルの使用」
- ◆ 28 ページの「構文」
- ◆ 33 ページの「NetWare セクションとキー」
- ◆ 79 ページの「完全自動化インストールの実行」
- ◆ 81 ページの「他の製品とサービスのインストールの自動化」
- ◆ 89 ページの「CD 起動とレスポンスファイル」
- ◆ 89 ページの「インストールスクリプトを利用したインストールのカスタマイズ」
- ◆ 91 ページの「ファクトリインストールの実行」

レスポンスファイルの作成

新しいレスポンスファイルを作成するか、以前のサーバインストールで使用したレスポンスファイルを編集して使用します。

注：以前のインストールで使用したレスポンスファイルを使用する場合には、新しいインストールでは適用しない高度な設定オプションが含まれていることもあるため、注意してください。

新しいレスポンスファイルを作成する

- 1 ASCII エディタ (EDIT など) を開きます。
- 2 28 ページの「構文」の説明を参照して、パラメータを入力します。

以前のサーバインストールで使用したファイルを編集する

サーバインストールまたはアップグレードのために作成したレスポンスファイルを、次のサーバインストールまたはアップグレードに利用することができます。別のサーバインストールで使用したレスポンスファイルの再利用は、2つのサーバのハードウェア設定が同じであれば最も有効です。

- 1 最初のサーバインストールを実行し、インストールの終了画面で [Yes] をクリックしてサーバを再起動します。
- 2 再起動後、新しいサーバにログインします。
- 3 SYS:NI¥DATA ディレクトリから、ディスクまたは新しいサーバに RESPONSE.NI をコピーします。

- 4 パラメータを調整し、不要なセクションを削除して、ファイルを修正します。

パラメータの説明については、28 ページの「構文」を参照してください。

レスポンスファイルの使用

レスポンスファイルはサーバインストールの際に、次のいずれかの方法で利用されます。

- ◆ サーバインストールの際に指定する
- ◆ コマンドラインで入力する

サーバインストールの際にレスポンスファイルを使用する

- 1 ディスクまたはハードディスク、または NetWare のインストール作業に使用している PC からアクセス可能なネットワークディレクトリに、レスポンスファイルをコピーします。
- 2 「INSTALL」と入力し、サーバインストールを開始します。
- 3 [Install Options] 画面 (言語セクションの後に表示される最初の画面) で <F3> を押し、レスポンスファイルウィンドウを開きます。
- 4 レスポンスファイルのパスを入力し、<Enter> を押します。
- 5 サーバインストールの次の手順に進みます。

コマンドラインでレスポンスファイルを入力する

- 1 フロッピーディスクまたはハードディスク、または NetWare のインストール作業に使用しているサーバからアクセス可能なネットワークディレクトリに、レスポンスファイルをコピーします。
- 2 次のコマンドを入力して、CD またはハードディスク、またはネットワークディレクトリからサーバインストールを開始します。

```
INSTALL /RF=response_file_DOS_path¥filename
```

response file DOS path をレスポンスファイルのパスに置き換え、*filename* をレスポンスファイルの名前に置き換えます。たとえば NetWare を CD からインストールしていて、レスポンスファイルはフロッピーディスクに収められている場合には、次のように入力します。

```
D:¥INSTALL /RF=A:¥RESPONSE.TXT
```

構文

レスポンスファイルは、Windows の .INI ファイルに似た形式のファイルです。データ項目はキーとして識別されます。各キーは対応する値を持ちます (キー = 値)。キーはセクション別に分類されます。NetWare インストールプログラムでは、各データ入力画面に 1 つ以上のセクションが関連付けられています。インストールのセクション名のほとんどには、画面の機能に関連する名前が付けられています。

セクションおよびキーの名称では、大文字と小文字が区別されます。キーと対応する値には、大文字小文字の区別はありません。行の先頭にセミコロンを置くと、その行はコメントになります。

セクションの並び順に規則はありません。しかし、同じセクション名のセクションが 2 つ以上ある場合、その中でレスポンスファイルに最初に現れるセクションだけが使用され、残りのセクションは無視されます。

次のリストに記載されているセクションが、NetWare サーバインストールに適用されます。リストの順番は、インストールの際に使用される順序になっています。

セクション	用途
33 ページの「[NWI:Product Information] セクション」	レスポンスファイルが関連付けられている特定の製品のバージョンを指定します。
34 ページの「[NWI:Language] セクション」	サーバにインストールする言語を指定します。
35 ページの「[NWI:Install Options] セクション」	最初のデータ入力画面に対応します。
37 ページの「[NWI:Server Settings] セクション」	サーバ設定画面に対応します。
38 ページの「[NWI:Locale] セクション」	地域設定画面に対応します。
40 ページの「[NWI:Mouse and Video] セクション」	ビデオ / マウス設定画面に対応します。
41 ページの「[NWI:Hardware] セクション」	インストールプログラムのハードウェア検出およびドライバマッチング機能に対応します。Update ディレクトリでドライバが検出されると、このドライバが NetWare CD で検出されるドライバの代わりに使用されます。

セクション	用途
45 ページの「[NWI:Excluded From Detection] セクション」	自動検出から除外されるドライバを指定します。
45 ページの「[NWI:Multi-Processor System] セクション」	サーバのプロセッサシステムに関連するドライバを指定します。
45 ページの「[NWI:Storage Adapter n] セクション」	特定のストレージアダプタのドライバと、関連するパラメータを指定します。このセクションはサーバ内のアダプタの数と同じ回数繰り返されます。変数 <i>n</i> により、複数のセクションの中から特定のセクションを指定できます (<i>n</i> =1、2 など)。
47 ページの「[NWI:Storage Device n] セクション」	記憶デバイスを指定します。このセクションはサーバ内のデバイスの数と同じ回数繰り返されます。変数 <i>n</i> により、複数のセクションの中から特定のセクションを指定できます (<i>n</i> =1、2 など)。
47 ページの「[NWI:Network Adapter n] セクション」	特定のネットワークアダプタのドライバと、関連するパラメータを指定します。このセクションはサーバ内のデバイスの数と同じ回数繰り返されます。変数 <i>n</i> により、複数のセクションの中から特定のセクションを指定できます (<i>n</i> =1、2 など)。
50 ページの「[NWI:Reserved Adapter n] セクション」	予約するアダプタを指定します。
51 ページの「[NWI:Hotplug System] セクション」	サーバのプロセッサシステムに関連するドライバを指定します。
51 ページの「[NWI:NetWare Loadable Module] セクション」	ハードウェアドライバと共にロードされる NLM™ プログラムを指定します。
60 ページの「[NWI:Misc] セクション」	データ入力画面に対応しないパラメータのコンテナとして機能します。
52 ページの「[NWI:File System] セクション」	パーティションおよびボリュームのパラメータを指定します。
61 ページの「[NWI:File Server] セクション」	サーバを固有に指定するパラメータを指定します。
62 ページの「[NWI:Protocols] セクション」	プロトコル画面を表示するかどうかを制御します。

セクション	用途
63 ページの「[NWI:TCPIP] セクション」	TCP/IP パラメータを指定します。
64 ページの「[NWI:IPX] セクション」	IPX™ パラメータを指定します。
65 ページの「[NWI:PCMD] セクション」	互換性モードのパラメータを指定します。
66 ページの「[NWI:SNMP] セクション」	Simple Network Management Protocol のパラメータを指定します。
68 ページの「[NWI:DNS] セクション」	ドメインネームサービス (DNS) パラメータを指定します。
69 ページの「[NWI:Host Name] セクション」	各 IP アドレスに DNS ホスト名を指定します。
70 ページの「[NWI:Time Zone] セクション」	タイムゾーン画面に対応します。
71 ページの「[NWI:Time Synchronization] セクション」	タイムサーバ設定を指定します。
71 ページの「[NWI:NDS] セクション」	NDS® 画面に対応します。
75 ページの「[NWI:License] セクション」	ライセンスファイルの場所を指定します。
77 ページの「[NWI:Add to Startup] セクション」	STARTUP.NCF ファイルに追加する行を指定します。
78 ページの「[NWI:Append To Autoexec.ncf] セクション」	AUTOEXEC.NCF ファイルに追加する行を指定します。
79 ページの「[NWI:Use NCF Settings] セクション」	アップグレードの際、サーバ名の指定にレスポンスファイルと AUTOEXEC.NCF ファイルのどちらを使用するかを指定します。
79 ページの「[Novell:NOVELL_ROOT:1.0.0] セクション」	インストールの完全自動化を指定します。
82 ページの「[Selected Nodes] セクション」	製品とサービスの完全自動化を指定します。

セクション	用途
85 ページの「[LDAP] セクション」	製品とサービスの完全自動化を指定します。
86 ページの「[Novell:DNS_DHCP:1.0.0] セクション」	製品とサービスの完全自動化を指定します。
90 ページの「[NWI:Install Script] セクション」	製品とサービスの完全自動化を指定します。
92 ページの「[NWI:Factory] セクション」	ファクトリインストールの完全自動化を指定します。
93 ページの「[Novell:StartupDirectory:1.0.0] セクション」	ファクトリインストールの完全自動化を指定します。
94 ページの「[Novell:SYSDirectory:1.0.0] セクション」	ファクトリインストールの完全自動化を指定します。
94 ページの「[Novell:ConfigDirectory:1.0.0] セクション」	ファクトリインストールの完全自動化を指定します。
95 ページの「[Novell:LANFiles:1.0.0] セクション」	ファクトリインストールの完全自動化を指定します。
95 ページの「[Novell:SBDFiles:1.0.0] セクション」	ファクトリインストールの完全自動化を指定します。
96 ページの「[Novell:portalzip:1.0.0] セクション」	ファクトリインストールの完全自動化を指定します。
96 ページの「[Novell:Rconjzip:1.0.0] セクション」	ファクトリインストールの完全自動化を指定します。
97 ページの「[Novell:Perl5zip:1.0.0] セクション」	ファクトリインストールの完全自動化を指定します。
97 ページの「[Novell:beanszip:1.0.0] セクション」	ファクトリインストールの完全自動化を指定します。
98 ページの「[Novell:scripteszip:1.0.0] セクション」	ファクトリインストールの完全自動化を指定します。

セクション	用途
98 ページの「 [Novell:scripteszip:1.0.0] セクション 」	ファクトリインストールの完全自動化を指定します。
99 ページの「 [Novell:console1zip:1.0.0] セクション 」	ファクトリインストールの完全自動化を指定します。
99 ページの「 [Novell:ldapzip:1.0.0] セクション 」	ファクトリインストールの完全自動化を指定します。
100 ページの「 [Novell:wanmanzip:1.0.0] セクション 」	ファクトリインストールの完全自動化を指定します。

Prompt キーは、データ入力画面に対応する各セクションとともに記載されます。次の働きがあります。

- ◆ 画面を表示するかどうかを制御する。
- ◆ レスポンスファイルを利用して、セクションでキーと値の入力を省略できるようにする。
- ◆ 画面の表示を省略できるようにする。

Prompt の値が真であれば、画面が表示され、レスポンスファイルに指定されているデータがデフォルト値として提示されます。**Prompt** の値が偽であれば、画面は表示されません。しかし、レスポンスファイル中の必要なデータが1つでも欠けていると、**Prompt** の値に関係なく画面が表示されます。各セクションのキーの詳細については、[33 ページの「NetWare セクションとキー」](#)を参照してください。

次の設定例では、NDS 情報の欄があらかじめ書き込まれたデータ入力画面が表示されます。

```
[NWI:NDS]
Prompt = True
Tree Name = Novell
New Tree = True
Server Context = 0=Utah
Admin Context = 0=Utah
Admin Login Name = Admin
Admin Password = install
Display Summary = True
```

次の設定例では、`[NDS input]` 画面と `[Summary]` 画面が表示されません。NetWare インストールプログラムは、この2つの手順を省略します。

```
[NWI:NDS]
Prompt = False
Tree Name = Novell
New Tree = True
Server Context = O=Utah
Admin Context = O=Utah
Admin Login Name = Admin
Admin Password = install
Display Summary = False
```

NetWare セクションとキー

この項では、NetWare インストールセクションと、それに関連するキーを示します。セクション名とキー名は太字で表記されています。各キーの説明には、デフォルト値と設定可能な値、およびそのキーが NetWare インストールを自動的に実行する際に必要となるかどうか(たとえば新しい DNS ツリーを何も入力することなく作成するには、レスポンスファイルに「**New Tree=True**」という記述が必要です)が記載されています。キーの用途についても簡単に説明しています。

[NWI:Product Information] セクション

Major Version = <string>

デフォルト	NetWare 6
値	(製品名)
キーの必要性	はい
設定例	Major Version = NetWare 6
用途	レスポンスファイルが関連付けられている製品名を指定します。この値が NetWare デフォルトレスポンスファイル(通常は CD の INSTALL ディレクトリにあります)に含まれる同一のキーと一致しなければ、インストールは先に進みません。

Minor Version = <integer>

デフォルト	10
値	0 ~ 99
キーの必要性	はい
設定例	Minor Version = 10
用途	製品のレビジョンレベルを指定します。この値が NetWare デフォルトレスポンスファイル (通常は CD の INSTALL ディレクトリにあります) に含まれる同一のキーと一致しなければ、インストールは先に進みません。 注: 英語版のリリースでは、誤ってデフォルト値が 0 に設定されています。このエラーは国際版のリリースで訂正されています。

Small Business = <string>

デフォルト	False
値	True または False
キーの必要性	いいえ
設定例	Small Business = True
用途	Small Business ライセンスモデルを使用するかどうかを決定します。

[NWI:Language] セクション

Prompt = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	はい
設定例	Prompt = True
用途	画面を表示するかどうかを決定します。

Server Language = <integer>

デフォルト	4 (英語)
値	1 ~ 100
キーの必要性	はい
設定例	Server Language = 4
用途	インストールプログラムの画面に表示される言語を指定します。これはサーバのデフォルト言語になります。

Additional Languages = <integers separated by commas>

デフォルト	(なし)
値	1 ~ 100 (INSTALL¥PROFILE.TXT で指定されている値)
キーの必要性	いいえ
設定例	Additional Languages = 5,6
用途	サーバに追加インストールする言語を指定します。

[NWI:Install Options] セクション

Prompt = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	はい
設定例	Prompt = True
用途	画面を表示するかどうかを決定します。

Upgrade = <string>

デフォルト	False
値	True または False
キーの必要性	はい
設定例	Upgrade = False
用途	実行するインストールが、アップグレードなのか新規インストールなのかを指定します。「False」を指定すると、アップグレードではなく新規インストールが指定されます。

Startup Directory = <string>

デフォルト	C:\NWSERVER
値	(全体で 255 文字までの、実在する DOS パス)
キーの必要性	はい
設定例	Startup Directory = C:\NWSERVER
用途	Boot パーティションでサーバの初期化ファイルが収められているディレクトリを指定します。

Allow User response file = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	いいえ
設定例	Allow User response file = True
用途	最初の画面で <F3> キーを有効にします。レスポンスファイルを追加するためのパスを入力できるようになります。 注：ユーザのレスポンスファイルの値は、以前にインストールプログラム 4 1 に渡された他のレスポンスファイルの値を上書きします。

Abort on Error = <string>

デフォルト	False
値	True または False
キーの必要性	いいえ
設定例	Abort on Error = True
用途	自動インストールの間にエラーが発生した場合、インストールを停止するかどうかを指定します。このキーが「False」に設定されていると、通常はエラー画面が表示されます。

[NWI:Server Settings] セクション

Prompt = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	はい
設定例	Prompt = True
用途	画面を表示するかどうかを決定します。

NDS Version = <integer>

デフォルト	8
値	7 または 8
キーの必要性	はい
設定例	NDS Version = 8
用途	サーバにインストールする NDS のバージョンを指定します。

Load Server at Reboot = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	いいえ
設定例	Load Server at Reboot = True
用途	最小 DOS 環境を設定し、自動的にサーバをロードする、新しい AUTOEXEC.BAT と CONFIG.SYS ファイルを追加します。サーバの既存の AUTOEXEC.BAT と CONFIG.SYS ファイルは、*.000 というファイル名にリネームされます。この値が「True」にセットされたとき、AUTOEXEC.000 がすでに存在していると、AUTOEXEC.BAT は AUTOEXEC.001 などにリネームされます。

CD Driver = <string>

デフォルト	NetWare
値	NetWare または DOS
キーの必要性	いいえ
設定例	Source Media Access = NetWare
用途	インストールの間、CD にアクセスするために使用するドライブのタイプ (DOS またはサーバ) を決定します。

[NWI:Locale] セクション

Prompt = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	はい
設定例	Prompt = True
用途	画面を表示するかどうかを決定します。

Country Code = <integer>

デフォルト	001
値	(INSTALL¥NLS¥ <i>language number</i> ¥LOCALE.TXT に指定されている値)
キーの必要性	はい
設定例	Country Code = 001
用途	国別の表示設定を指定します。

Code Page = <integer>

デフォルト	437
値	(INSTALL¥NLS¥ <i>language number</i> ¥LOCALE.TXT に指定されている値)
キーの必要性	はい
設定例	Code Page = 437
用途	サーバの文字セットを設定します。

Keyboard = <string>

デフォルト	United States
値	(INSTALL¥NLS¥< <i>language number</i> >¥LOCALE.TXT に指定されている値)
キーの必要性	はい
設定例	Keyboard = United States
用途	キーボードの種類を設定します。

[NWI:Mouse and Video] セクション

Prompt = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	はい
設定例	Prompt = True
用途	画面を表示するかどうかを決定します。

Mouse = <string>

デフォルト	PS/2
値	PS/2、Serial COM1、Serial COM2、No Mouse (INSTALL¥NLS¥language number¥LOCALE.TXT に指定されている値)
キーの必要性	はい
設定例	Mouse = PS/2
用途	インストールのグラフィカルインタフェースの操作に使用するマウスの種類を指定します。

Use Super VGA = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	いいえ
設定例	Use Super VGA = True
用途	インストールのグラフィカルインタフェースを Super VGA (256色) に設定するかどうかを指定します。「False」に設定すると、Standard VGA (16色) に設定されます。

[NWI:Hardware] セクション

Prompt = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	はい
設定例	Prompt = True
用途	画面を表示するかどうかを決定します。

Update Storage Driver Directory = <DOS path>

デフォルト	(なし) インストールでは常に C:\NFWUPDATE も参照されます。
値	(全体で 255 文字までの、実在する DOS パス)
キーの必要性	いいえ
設定例	Update Storage Driver Directory = F:\DRV\UPDATE
用途	アップデートされたストレージ (HAM および CDM) ドライバを収めたディレクトリのパスを指定します。このディレクトリは、ローカル DOS パスにすでに存在している必要があります。 注: 関連する DDI ファイルを、ストレージドライバと同じディレクトリに置いてください。

Update Network Driver Directory = <DOS path>

デフォルト	(なし) インストールでは常に C:\NWUPDATE も参照されます。
値	(全体で 255 文字までの、実在する DOS パス)
キーの必要性	いいえ
設定例	Update Network Driver Directory = F:\DRV\UPDATE
用途	アップデートされたネットワーク (LAN) ドライバを収めたディレクトリのパスを指定します。このディレクトリは、ローカル DOS パスにすでに存在している必要があります。 注: 関連する LDI ファイルを、ストレージドライブと同じディレクトリに置いてください。

Update PSM Driver Directory = <DOS path>

デフォルト	(なし) インストールでは常に C:\NWUPDATE も参照されます。
値	(全体で 255 文字までの、実在する DOS パス)
キーの必要性	いいえ
設定例	Update PSM Driver Directory = F:\DRV\UPDATE
用途	アップデートされたプロセッサ (PSM) ドライバを収めたディレクトリのパスを指定します。このディレクトリは、ローカル DOS パスにすでに存在している必要があります。 注: 関連する PDI ファイルを、ストレージドライブと同じディレクトリに置いてください。

Update Source Drive Type = <string>

デフォルト	(インストールソースの種類)
値	フロッピーディスク、CD、ネットワーク、その他
キーの必要性	いいえ (このセクションの Update キーのうち、1 つでも設定されていない場合)
設定例	Update Source Drive Type = Network
用途	このセクションの Update キーで指定される、ソースディレクトリの種類を指定します。ソースディレクトリはすべて同じ種類である必要があります。

PSM Detection = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	いいえ
設定例	PSM Detection = True
用途	プロセッサシステムにドライバマッチングを実行するかどうかを決定します。ドライバ情報がレスポンスファイルに定義されている場合 ([NWI:Multi-Processor System] セクションを参照)、[PSM Detection] は「False」に設定されます。

Storage Detection = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	いいえ
設定例	Storage Detection = True
用途	ストレージアダプタの検出とドライバマッチングを実行するかどうかを決定します。ストレージアダプタとドライバ情報がレスポンスファイルに定義されている場合 ([NWI:Storage Adapter n] セクションを参照)、[Storage Detection] は「False」に設定されます。

Network Detection = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	いいえ
設定例	Network Detection = True
用途	ネットワークアダプタの検出とドライバマッチングを実行するかどうかを決定します。ネットワークアダプタとドライバ情報がレスポンスファイルに定義されている場合 ([NWI:Network Adapter n] セクションを参照)、[Network Detection] は「False」に設定されます。

Device Detection = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	いいえ
設定例	Device Detection = True
用途	ストレージデバイスの検出とドライバマッチングを実行するかどうかを決定します。ストレージアダプタとドライバ情報がレスポンスファイルに定義されている場合 ([NWI:Storage Device n] セクションを参照)、[Device Detection] は「False」に設定されます。

HotPlug Detection = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	いいえ
設定例	HotPlug Detection = True
用途	Hot Plug デバイスの検出とドライバマッチングを実行するかどうかを決定します。

[NWI:Excluded From Detection] セクション

Driver File = <filename>

デフォルト	(なし)
値	(ドライバのファイル名)
キーの必要性	いいえ
設定例	Driver File = AHA2940.HAM
用途	自動検出から除外されるドライバを指定します。

[NWI:Multi-Processor System] セクション

Driver File = <filename>

デフォルト	(なし)
値	(ドライバのファイル名)
キーの必要性	いいえ (PSM Detection=False でない場合)
設定例	Driver File = MPS14.PSM
用途	サーバのマルチプロセッサシステムに使用するドライバを指定します。

[NWI:Storage Adapter *n*] セクション

設定例	[NWI:Storage Adapter 1]
説明	このセクションは、サーバの各ストレージアダプタに対して記述されます。このセクションで説明するキーの中には、省略できるものもあります。ドライバを NetWare から検出できる場合には、このセクションに必要なキーは Driver File キーだけになります。その他のキーおよび値はさまざまであり、ドライバに対応する DDI ファイルから抽出されます。

Driver File = <filename>

デフォルト	(なし)
値	(ドライバのファイル名)
キーの必要性	いいえ (Storage Detection=False でない場合)
設定例	Driver File = AHA2940.HAM
用途	ストレージアダプタに使用するドライバを指定します。

SLOT = <integer>

デフォルト	(なし)
値	(PCIのような自動検出をサポートするバスを備えたサーバに割り当てられる、5桁のハードウェアインスタンス番号)
キーの必要性	いいえ (ドライバがISAアダプタ用でない場合)
設定例	SLOT = 2
用途	ドライバがロードされるストレージアダプタのバススロットを指定します。

INT = <hexadecimal number>

デフォルト	(なし)
値	1 ~ F
キーの必要性	いいえ (ドライバがISAアダプタ用でない場合)
設定例	INT = F
用途	アダプタが設定される割り込みを指定します。このパラメータはISAバスアダプタで共通して使用されます。

PORT = <number>

デフォルト	(なし)
値	(3桁のメモリアドレス)
キーの必要性	いいえ (ドライバが ISA アダプタ用でない場合)
設定例	PORT = 170
用途	アダプタに設定するメモリアドレスを指定します。このパラメータは ISA バスアダプタで共通して使用されます。

[NWI:Storage Device *n*] セクション

設定例	[NWI:Storage Device 1]
説明	このセクションは、サーバの各ストレージデバイスに対して記述されます。

Driver File = <filename>

デフォルト	(なし)
値	(ドライバのファイル名)
キーの必要性	いいえ (Device Detection=False でない場合)
設定例	Driver File = IDECD.CDM
用途	ストレージデバイスに使用するドライバを指定します。

[NWI:Network Adapter *n*] セクション

設定例	[NWI:Network Adapter 1]
説明	このセクションは、サーバの各ネットワークアダプタに対して記述されます。このセクションで説明するキーの中には、省略できるものもあります。ドライバを NetWare から検出できる場合には、このセクションに必要なキーは Driver File キーだけになります。その他のキーおよび値はさまざまであり、ドライバに対応する LDI ファイルから抽出されます。

Driver File = <filename>

デフォルト	(なし)
値	(ドライバのファイル名)
キーの必要性	いいえ (Network Detection=False でない場合)
設定例	Driver File = 3C59X.LAN
用途	ネットワークアダプタに使用するドライバを指定します。

SLOT = <integer>

デフォルト	(なし)
値	(PCIのような自動検出をサポートするバスを備えたサーバに割り当てられる、5桁のハードウェアインスタンス番号)
キーの必要性	いいえ (ドライバが ISA アダプタ用でない場合)
設定例	SLOT = 10001
用途	ドライバがロードされるネットワークアダプタのバススロットを指定します。

INT = <hexadecimal number>

デフォルト	(なし)
値	1 ~ F
キーの必要性	いいえ (ドライバが ISA アダプタ用でない場合)
設定例	INT = F
用途	アダプタが設定される割り込みを指定します。このパラメータは ISA バスアダプタで共通して使用されます。

PORT = <number>

デフォルト	(なし)
値	(3桁のメモリアドレス)
キーの必要性	いいえ (ドライバが ISA アダプタ用でない場合)
設定例	PORT = 170
用途	アダプタに設定するメモリアドレスを指定します。このパラメータは ISA バスアダプタで共通して使用されます。

Adapter Name = <string>

デフォルト	(なし)
値	(255 文字までのテキスト)
キーの必要性	いいえ
設定例	Adapter Name = 3C59X_1
用途	アダプタに固有の名前を指定します。

Frame Type *n* = <frame type>

デフォルト	(なし)
値	(ドライバがサポートするフレームタイプは、ドライバの LDI ファイルに記述されています)
キーの必要性	いいえ
設定例	Frame Type 1 = Ethernet_802.2
用途	ドライバをロードする際に使用する、ネットワークのフレームタイプを指定します。フレームタイプの記述は、ドライバがサポートするフレームタイプの数だけあります。変数 <i>n</i> を使用して、特定のフレームタイプを指定できます (1、2 など)。

Logical Name n = <string>

デフォルト	(なし)
値	(フレームタイプとアダプタ名を組み合わせたテキスト)
キーの必要性	いいえ
設定例	Logical Name 1 = 3C59X_1_E82
用途	アダプタでプロトコルをフレームタイプにバインドする際に使用する名前を指定します。ドライバと共にロードされる1つのフレームタイプに対し、1つの論理名が必要です。変数 n を使用して、各フレームタイプを個別に指定することができます ($n=1, 2$ など)。

Octet Bit Order = <string>

デフォルト	LSB
値	LSB または MSB
キーの必要性	いいえ
設定例	Octet Bit Order = LSB
用途	ネットワークアダプタがノードアドレスの解釈に利用するビット配列 (最下位ビットまたは最上位ビット) を指定します。

[NWI:Reserved Adapter n] セクション

設定例	[NWI:Reserved Adapter 1]
説明	このセクションは、サーバの各スロットに対して記述されません。

SLOT = <integer>

デフォルト	(なし)
値	(PCIのような自動検出をサポートするバスを備えたサーバに割り当てられる、5桁のハードウェアインスタンス番号)
キーの必要性	いいえ(ドライバがISAアダプタ用でない場合)
設定例	SLOT=5
用途	予約しておくバススロットを指定します。このスロットでアダプタが検出されると、エラーが発生します。

[NWI:Hotplug System] セクション

Driver File = <filename>

デフォルト	(なし)
値	(ドライバのファイル名)
キーの必要性	いいえ(HotPlug Detection=Falseでない場合)
設定例	Driver File = CPQSBD.NLM
用途	Hot Plug システムに使用するドライバを指定します。

[NWI:NetWare Loadable Module] セクション

Driver File = <filename>

デフォルト	(なし)
値	(NLMの名前)
キーの必要性	いいえ
設定例	Driver File = ROUTE.NLM
用途	インストールの際にロードする NLM を指定します。一般的に、NLM はネットワークサポート NLM プログラムで使用されます。

[NWI:File System] セクション

Prompt = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	はい
設定例	Prompt = True
用途	キャラクターベースの [SYS Volume and Partition] 画面を表示するかどうかを決定します。

Allow Volume Properties = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	いいえ
設定例	Allow Volume Properties = True
用途	F3 Volume Properties オプションを表示するかどうかを決定します。

GUI Prompt = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	はい
設定例	GUI Prompt = True
用途	インストールのグラフィカルインタフェース部分で、[File System] 画面を表示するかどうかを決定します。

[NWI:Partition *n*] セクション

設定例	[NWI:Partition 0]
説明	このセクションを使用して、インストールの際にシステム上の特定のデバイスにパーティションを作成できます。このセクションのキーエントリでデバイスを指定します。0 から始まる連続した番号 ($n = 0, 1, 2, 3, \dots$) をセクションの見出しに入れ、パーティションを作成する順序を指定します。ボリューム SYS を作成するパーティションは、[NWI:Partition 0] セクションで定義する必要があります。

Device Type = <string>

デフォルト	(なし)
値	IDE または SCSI
キーの必要性	いいえ
設定例	Device Type = IDE
用途	パーティションを置くデバイスの種類を指定します。

IDE Device Serial Number = <string>

デフォルト	(なし)
値	(文字列)
キーの必要性	いいえ
設定例	IDE Device Serial Number = AX8273430930.
用途	デバイスの製造元が指定するシリアル番号を指定します (通常、デバイスに貼り付けられているラベルに記載されています)。

IDE Device Channel = <integer>

デフォルト	(なし)
値	1、2、3、4
キーの必要性	いいえ
設定例	IDE Device Channel = 1
用途	デバイスが検出されるチャンネルを指定します。

IDE Device Type = <string>

デフォルト	(なし)
値	Master または Slave
キーの必要性	いいえ
設定例	IDE Device Type = Master
用途	チャンネル上のデバイスの、IDE タイプを指定します。

SCSI Device Adapter Slot = <integer>

デフォルト	(なし)
値	1 ~ 16
キーの必要性	いいえ
設定例	SCSI Device Adapter Slot = 1
用途	SCSI アダプタの物理スロット番号を指定します。

SCSI Device ID = <integer>

デフォルト	(なし)
値	0 ~ 15
キーの必要性	はい
設定例	SCSI Device ID = 0
用途	SCSI チェーン上のデバイスの ID を指定します。

Partition Type = <string>

デフォルト	NSS
値	NetWare、NSS、Free
キーの必要性	いいえ
設定例	Partition Type = NSS
用途	作成するパーティションのタイプを指定します。

Partition Size = <integer> または <ALL FREE SPACE>

デフォルト	(なし)
値	(デバイスの空き領域全体のサイズを上限とする、MB 単位の値)
キーの必要性	いいえ
設定例	Partition Size = 1000
用途	パーティションのサイズを指定します。この数値はシリンダ境界にあわせて調整してください。「ALL FREE SPACE」を指定すると、デバイスの残りの空き領域がすべて使用されます。

Partition HotFix Size = <integer>

デフォルト	(パーティションサイズに従って算出されます)
値	0 ~ 120 (MB)
キーの必要性	いいえ
設定例	Partition HotFix Size = 20
用途	パーティションの再配置領域のサイズを指定します。

Mirror Partition = <integer>

デフォルト	(なし)
値	(パーティション番号)
キーの必要性	いいえ
設定例	Mirror Partition = 3
用途	パーティションをミラーリングするパーティションを指定します。

[NWI:Volume *n*] セクション

設定例	[NWI:Volume 0]
説明	このセクションは、サーバの各ボリュームに対して記述されません。SYS をボリューム 0 に設定するように注意してください。このセクションを使用して、インストールの際にシステム上の特定のパーティションにボリュームを作成できます。このセクションのキーエントリでパーティションを指定します。0 から始まる連続した番号 ($n=0, 1, 2, 3, \dots$) をセクションの見出しに入れ、ボリュームを作成する順序を指定します。ボリューム SYS は [NWI:Volume 0] で定義する必要があります。

Volume Name = <string>

デフォルト	(なし)
値	(有効なボリューム名)
キーの必要性	はい
設定例	Volume Name = DATA
用途	ボリューム名を指定します。NetWare のユーザマニュアルに記載されている命名規則に従ってください。

Volume Type = <string>

デフォルト	NSS
値	NetWare、NSS、Free
キーの必要性	いいえ
設定例	Volume Type = NSS
用途	作成するボリュームのタイプを指定します。ボリュームタイプはパーティションタイプに合わせて指定することに注意してください(たとえば、NSS パーティションには NSS ボリュームを作成)。

Block Size = <integer>

デフォルト	(ボリュームの先頭にあるセグメントのサイズに従って算出されます)
値	4、8、16、32、64
キーの必要性	いいえ
設定例	Block Size = 64
用途	ボリュームのブロックサイズを指定します。このキーは NSS ボリュームには適用されないことに注意してください。

Compression = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	いいえ
設定例	Compression = True
用途	ボリュームの圧縮を有効にするかどうかを指定します。

Suballocation = <string>

デフォルト	True (NetWare ボリュームタイプの場合)
値	True または False
キーの必要性	いいえ
設定例	Suballocation = True
用途	ボリュームの細分割り当てを有効にするかどうかを指定します。このキーは NSS ボリュームには適用されないことに注意してください。

Data Migration = <string>

デフォルト	False
値	True または False
キーの必要性	いいえ
設定例	Data Migration = True
用途	ボリュームのデータマイグレーションを有効にするかどうかを指定します。このキーは NSS ボリュームには適用されないことに注意してください。

Mount = <string>

デフォルト	False
値	True または False
キーの必要性	いいえ
設定例	Mount = True
用途	インストールの際に、ボリュームをマウントするかどうかを指定します。このキーは、他の製品やサービスを SYS 以外のボリュームにインストールする場合に便利です。ボリュームをマウントすると、サーバインストールに要する時間が増えることに注意してください。[NWI:File System] セクションの GUI Prompt が「False」に設定されていない場合、このキーは無視されます。これはインストールの際に、このキーとマウントボリューム画面の間で競合が生じないようにするためです。

Segment n Partition = <integer>

デフォルト	(なし)
値	([NWI:Partition n] セクションで定義された n のうち、いずれかの値)
キーの必要性	はい
設定例	Segment 1 Partition = 1
用途	ボリュームセグメントを作成するパーティションを指定します。NetWare パーティションでは、セグメントの数 n は 1 ～ 8 に制限されます。定義は連続して行う必要があります。

Segment n Size = <integer> または <ALL FREE SPACE>

デフォルト	(なし)
値	(パーティションの空き領域全体のサイズを上限とする、MB 単位の値)
キーの必要性	はい
設定例	Segment 1 Size = 1000
用途	ボリュームセグメントのサイズを指定します。「ALL FREE SPACE」を指定すると、パーティションの残りの空き領域がすべて使用されます。

[NWI:Misc] セクション

Relogin Password = <string>

デフォルト	(なし)
値	(テキスト)
キーの必要性	いいえ (ネットワークインストール以外の場合)
設定例	Relogin Password = Novell
用途	ネットワーク経由でインストールを実行する際に使用する、ユーザ接続のパスワードを指定します。このセクションを利用して、インストールで LAN ドライバのロードの後、ファイルの予備的なコピーの前に現れる再認証画面を省略することができます。

[NWI:File Server] セクション

注: インストールのグラフィカルインタフェース部分で使用される、最初のセクションです。

Prompt = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	はい
設定例	Prompt = True
用途	画面を表示するかどうかを決定します。

Servename = <string>

デフォルト	(なし)
値	(47 文字までのテキスト。有効な文字については、NetWare マニュアルを参照してください)
キーの必要性	はい
設定例	Servename = Novell
用途	サーバの名前を指定します。有効なサーバ名が入力されるまで、サーバには仮の名前が与えられることに注意してください。

Server ID Number = <hexadecimal number>

デフォルト	(ランダムに生成されます)
値	00000001 ~ FFFFFFFF
キーの必要性	はい
設定例	Server ID Number = 01010101
用途	ネットワーク通信を行うために、サーバを個別に指定します。この番号が、ネットワークに存在している IPX™ アドレスと競合しないように注意してください。

[NWI:Protocols] セクション

Prompt = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	はい
設定例	Prompt = True
用途	プロトコル画面を表示するかどうかを制御します。

Single Network Adapter=<string>

デフォルト	False
値	True または False
キーの必要性	いいえ
設定例	Single Network Adapter=True
用途	このキーが「True」に設定されていると、レスポンスファイルの [NWI:TCPIP] および [NWI:IPX] セクションの [Logical Name 1] キーが、システムで最初に検出されたネットワークカードの論理名に自動的に設定されます。この論理名は、レスポンスファイルの [NWI:TCPIP] および [NWI:IPX] セクションで指定されている TCP/IP および IPX アドレスにバインドされます。

Default IP Frame Typer=<string>

デフォルト	(なし)
値	(ドライバがサポートするフレームタイプは、ドライバの LDI ファイルに記述されています)
キーの必要性	いいえ
設定例	Default IP Frame Type=Ethernet II
用途	[Single Network Adapter] キーが「True」に設定されているとき、IP スタックにバインドするネットワークフレームタイプを指定します。

Default IPX Frame Typer=<string>

デフォルト	(なし)
値	(ドライバがサポートするフレームタイプは、ドライバの LDI ファイルに記述されています)
キーの必要性	いいえ
設定例	Default IPX Frame Type=Ethernet 802.2
用途	[Single Network Adapter] キーが「True」に設定されているとき、IPX スタックにバインドするネットワークフレームタイプを指定します。

[NWI:TCPIP] セクション

Logical Name n = <string>

デフォルト	(なし)
値	(レスポンスファイルの [NMI:Network Adapter n] セクションで指定した名前)
キーの必要性	いいえ (IP がバインドされていない場合)
設定例	Logical Name 1 = 3C59X_1_EH
用途	プロトコルをバインドするアダプタとフレームタイプの名前を指定します。

IP Address n = <decimal number>

デフォルト	(なし)
値	(有効な IP アドレス)
キーの必要性	いいえ (論理名が設定されていない場合)
設定例	IP Address 1 = 130.1.130.1
用途	バインドする IP アドレスを指定します。

Subnet Mask n = <decimal number>

デフォルト	(なし)
値	(有効な IP アドレス)
キーの必要性	いいえ (論理名が設定されていない場合)
設定例	Subnet Mask 1 = 255.255.255.0
用途	サブネットを指定します。IP アドレスをネットワークアドレスとノードアドレスに分割します。

Gateway n = <decimal number>

デフォルト	(なし)
値	(有効な IP アドレス)
キーの必要性	いいえ
	Gateway 1 = 127.127.0.254
用途	サーバがサブネット外部との通信に使用する、ゲートウェイまたはルータを指定します。

[NWI:IPX] セクション

Logical Name n = <string>

デフォルト	(なし)
値	(レスポンスファイルの [NMI:Network Adapter n] セクションで指定した名前)
キーの必要性	いいえ (IPX がバインドされていない場合)
設定例	Logical Name 1 = 3C59X_1_E82
用途	プロトコルをバインドするアダプタとフレームタイプの名前を指定します。

IPX Address n = <hexadecimal number>

デフォルト	(インストールプログラムが検出したアドレス)
値	00000001 ~ FFFFFFFF
キーの必要性	いいえ (論理名が設定されていない場合)
設定例	IPX Address 1 = 01010102
用途	バインドする IPX アドレスを指定します。

[NWI:IPCMD] セクション

IPX Compatibility = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	いいえ
設定例	IPX Compatibility = True
用途	SCMD をサーバにロードするかどうかを決定します。

Migration Agent = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	いいえ
設定例	Migration Agent = True
用途	サーバにマイグレーションエージェント (SCMD /MA) をロードするかどうかを決定します。

CMD Net Number = <string>

デフォルト	(なし)
値	00000001 ~ FFFFFFFF
キーの必要性	いいえ
設定例	CMD Net Number = 01010101
用途	ネットワーク番号を指定します。

Preferred IP Address = <decimal number>

デフォルト	(なし)
値	(有効な IP アドレス)
キーの必要性	いいえ
設定例	Preferred IP Address = 130.1.130.1
用途	IP アドレスを指定します。

[NWI:SNMP] セクション

Hardware = <string>

デフォルト	(なし)
値	値 (テキスト)
キーの必要性	いいえ
設定例	Hardware = Personal Computer
用途	トラブルシューティングに利用するために、SNMP トラップを使用して送られる識別情報です。

Location = <string>

デフォルト	(なし)
値	(テキスト)
キーの必要性	いいえ
設定例	Location = Building A
用途	トラブルシューティングに利用するために、SNMP トラップを使用して送られる識別情報です。

Contact = <string>

デフォルト	(なし)
値	(テキスト)
キーの必要性	いいえ
設定例	Contact = John Doe
用途	トラブルシューティングに利用するために、SNMP トラップを使用して送られる識別情報です。

Trap Targets TCPIP = <decimal numbers separated by commas>

デフォルト	(なし)
値	(有効な IP アドレス)
キーの必要性	いいえ
設定例	Trap Targets TCPIP = 127.1.127.3
用途	SNMP トラップが送られるコンピュータの IP アドレスを指定します。

Trap Targets IPX = <MAC address separated by commas>

デフォルト	(なし)
値	(8文字のIPXアドレス:12文字のノード番号)
キーの必要性	いいえ
設定例	Trap Targets IPX = C9990111:000001B555555
用途	SNMPトラップが送られるコンピュータのMACアドレスを指定します。

[NWI:DNS] セクション

Prompt = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	はい
設定例	Prompt = True
用途	DNS画面を表示するかどうかを決定します。

Domain = <string>

デフォルト	(なし)
値	(テキスト)
キーの必要性	いいえ
設定例	Domain = novell.com
用途	ドメインを指定します。

Nameservers = <decimal numbers separated by commas>

デフォルト	(なし)
値	(有効な IP アドレス)
キーの必要性	いいえ
設定例	Nameservers = 131.1.131.1, 131.1.131.2
用途	名前解決に使用するサーバを指定します。

[NWI:Host Name] セクション

Prompt = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	はい
設定例	Prompt = True
用途	画面を表示するかどうかを決定します。

Host Name n = <string>

デフォルト	(なし)
値	(テキスト)
キーの必要性	いいえ
設定例	Host Name 1 = install.novell.com
用途	すでにバインドされている IP アドレスに関連付けるホスト名を指定します。

IP Address n = <decimal number>

デフォルト	(なし)
値	(有効な IP アドレス)
キーの必要性	いいえ
設定例	IP Address 1 = 130.1.130.1
用途	Host Name キーに関連付ける IP アドレスを指定します。Host Name 1 はプライマリアドレスとして設定されることに注意してください。

[NWI:Time Zone] セクション

Prompt = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	はい
設定例	Prompt = True
用途	タイムゾーン画面を表示するかどうかを決定します。

Time Zone = <string>

デフォルト	(なし)
値	(string—COMOTHR.ILS を参照してください)
キーの必要性	はい
設定例	Time Zone = (GMT-06:00) U.S. and Canada Central Time
用途	標準タイムゾーンを指定します。COMOTHR.ILS (INSTALL¥NLS¥4 にあります) に記載されている文字列を、正確に使用するように注意してください。

Use Daylight Saving Time = <string>

デフォルト	True (タイムゾーンが夏時間をサポートする場合)
値	True または False
キーの必要性	いいえ
設定例	Use Daylight Saving Time = True
用途	夏時間を設定するかどうかを決定します。

[NWI:Time Synchronization] セクション

Default Time Server Type = <string>

デフォルト	(新しいツリーならば「Single」、すでに存在するツリーならば「Secondary」)
値	Single、Primary、Secondary
キーの必要性	いいえ
設定例	Default Time Server Type = Single
用途	タイムサーバタイプを指定します。

[NWI:NDS] セクション

Prompt = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	はい
設定例	Prompt = True
用途	NDS 画面を表示するかどうかを決定します。

Tree Name = <string>

デフォルト	(なし)
値	(テキスト)
キーの必要性	はい
設定例	Tree Name = Novell
用途	サーバをインストールする新しいツリーまたは既存のツリーのツリー名を指定します。

New Tree = <string>

デフォルト	False
値	True または False
キーの必要性	はい
設定例	New Tree = True
用途	NDS ツリーを新しいツリーとしてインストールするの、既存のツリーにインストールするのかを指定します。 注：このキーは「Prompt = False」の場合にのみ使用できます。

Server Context = <string>

デフォルト	(なし)
値	(NDS 識別名)
キーの必要性	はい
設定例	Server Context = .install.novell
用途	サーバがインストールされる NDS コンテキストを指定します。

Add Replica = <string>

デフォルト	(なし)
値	True または False
キーの必要性	いいえ
設定例	Add Replica = True
用途	サーバにレプリカを追加するかどうかを決定します。これは、サーバが NDS ツリーに最初に追加される 3 つのサーバの 1 つに含まれない場合に限り、適用されます (デフォルト設定では、最初の 3 サーバがレプリカを受信します)。

Upgrade User Conflict Action = <string>

デフォルト	(なし)
値	Delete、Merge、Rename
キーの必要性	いいえ (NetWare 3.1x からのアップグレードではない場合)
設定例	Upgrade User Conflict Action = Merge
用途	NetWare 3.1x サーバをアップグレードする場合、バインダリを NDS に変換する際に同じ名前のオブジェクトが検出されたときに実行するアクションを決定します。

Admin Login Name = <string>

デフォルト	(なし)
値	(テキスト)
キーの必要性	はい
設定例	Admin Login Name = Admin
用途	サーバ管理者の名前を指定します。

Admin Context = <string>

デフォルト	(なし)
値	(NDS 識別名)
キーの必要性	はい
設定例	Admin Context = .install.novell
用途	サーバ管理者がインストールされる NDS コンテキストを指定します。

Admin Password = <string>

デフォルト	(なし)
値	(テキスト)
キーの必要性	はい
設定例	Admin Password = Novell
用途	サーバ管理者のパスワードを指定します。セキュリティを確保するために、NDS をインストールした後にレスポンスファイルからパスワードが削除されることに注意してください。

Admin Language = <integer>

デフォルト	4 (英語)
値	1 ~ 100
キーの必要性	はい
設定例	Admin Language = 4
用途	サーバ管理者の使用する言語を指定します。サーバ管理者が作成したユーザオブジェクトには、この言語が指定されます。

Display Summary = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	はい
設定例	Display Summary = True
用途	NDS Summary 画面を表示するかどうかを決定します。

[NWI:License] セクション

Prompt = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	はい
設定例	Prompt = True
用途	ライセンス画面を表示するかどうかを決定します。

Display License Agreement = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	はい
設定例	Display License Agreement = False
用途	サービンスツールで最初に表示される、使用許諾契約画面を表示するかどうかを決定します。

Install Licenses Later = <string>

デフォルト	False
値	True または False
キーの必要性	いいえ
設定例	Install Licenses Later = True
用途	サーバにライセンスをインストールしないように設定します。このキーが「True」に設定されていると、以降のライセンスキーはすべて無視されます。

License File = <string>

デフォルト	(なし)
値	(実在する DOS パスとバックファイル名—255 文字まで)
キーの必要性	いいえ (ライセンスをインストールしない場合)
設定例	License File = C:\NWSERVER\0000001.NLF
用途	ライセンスバックファイルのディレクトリとファイル名を指定します。

NICI Foundation Key File = <string>

デフォルト	(なし)
値	(実在する DOS パスとバックファイル名—255 文字まで)
キーの必要性	いいえ
設定例	NICI Foundation Key File = C:\LIC\92942492.NFK
用途	地域固有の暗号化モジュールのディレクトリとファイル名を指定します。

Search For Existing License = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	はい
設定例	Search For Existing License = False
用途	ライセンス (MLA ライセンスなど) がツリー内で検索されるかどうかを決定します。次のキーと共に使用されます。

Auto Skip If License Found = <string>

デフォルト	False
値	True または False
キーの必要性	はい
設定例	Auto Skip If License Found = True
用途	Search For Existing License キーを使用して検出したライセンスを使用するかどうかを決定します。特に MLA アカウントには有効です。

[NWI:Add to Startup] セクション

Prepend Line n = <decimal number>

デフォルト	(なし)
値	(10 進数値)
キーの必要性	いいえ
設定例	Prepend Line 1 = SET IGNORE DISK GEOMETRY=ON
用途	STARTUP.NCF ファイルの先頭に行を追加します。複数の行を追加する場合には、1 行追加するごとに <i>n</i> を追加してください。

Append Line n = <decimal number>

デフォルト	(なし)
値	(10進数値)
キーの必要性	いいえ
設定例	Append Line 1 = LOAD NFS.NAM
用途	STARTUP.NCF ファイルの末尾に行を追加します。複数の行を追加する場合には、1行追加するごとに <i>n</i> を追加してください。

[NWI:Append To Autoexec.ncf] セクション

Line n = <decimal number>

デフォルト	(なし)
値	(10進数値)
キーの必要性	いいえ
設定例	Line 1 = LOAD MONITOR
用途	AUTOEXEC.NCF ファイルの末尾に行を追加します。複数の行を追加する場合には、1行追加するごとに <i>n</i> を追加してください。

[NWI:Use NCF Settings] セクション

Override NCF = <True or False>

デフォルト	(False)
値	(True または False)
キーの必要性	いいえ
設定例	Override NCF = True
用途	「True」に設定すると、アップグレードの際、サーバ名は AUTOEXEC.NCF ではなくレスポンスファイルで指定されます。

完全自動化インストールの実行

インストールやアップグレードを完全に自動化するためには、次のパラメータを提示する必要があります。NetWare インストールの追加セクションの構文と値、および関連するキーを次に説明します。自動化インストールを完全に実行するためには、[33 ページの「NetWare セクションとキー」](#)に挙げたすべての必要なキーに加え、次のセクションもレスポンスファイルに記述されている必要があります。

[Novell:NOVELL_ROOT:1.0.0] セクション

closeScreen = <string>

デフォルト	(なし)
値	SilentCloseScreen
キーの必要性	はい
設定例	closeScreen = SilentCloseScreen
用途	このパラメータが設定されていると、インストールの最終画面が表示されなくなります。

Reboot = <string>

デフォルト	(なし)
値	True または False
キーの必要性	はい
設定例	Reboot = False
用途	インストールの最終画面が閉じられた後、サーバを再起動するかどうかを決定します。

allowSummary = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	はい
設定例	allowSummary = False
用途	インストールの [Summary] 画面を表示するかどうかを決定します。

silent = <string>

デフォルト	False
値	True または False
キーの必要性	はい
設定例	silent = False
用途	ユーザと対話しないサイレントモードでインストールを実行するかどうかを決定する、グローバルキー。このキーをサポートしないセクションもあります。その場合には、代わりに「prompt=false」キーを使用します。

他の製品とサービスのインストールの自動化

レスポンスファイルに [Selected Nodes] セクションを追加すると、他の製品とサービスを NetWare インストールの一部として自動インストールできます。レスポンスファイルのこのセクションは他のセクションほど簡単に設定できないため、次の手順を実行することをお勧めします。

- 1 サーバにインストールする製品を選択し、手動インストールを実行します。
- 2 出力されたレスポンスファイルを、次回の NetWare インストールの入力に利用するために修正します。
- 3 入力レスポンスファイルに、[Selected Nodes] セクションを追加します。
- 4 [Selected Nodes] セクションの見出しの下に、次の行を追加します。

```
Novell:NetWare5:1.0.0=Novell:NetWare5OS:5.0.0,Novell:Products:1.0.0,Novell:NWUpdateGroup:1.0.0
Novell:NetWare5OS:5.0.0=Novell:DiskCarver:1.0.0,Novell:Protocols:1.0.0,Novell:DS_Install:1.0.0,Novell:LicensePrompt:1.0.0,Novell:NW:1.0.0,Novell:NDPS
Server Files:1.0.0
Novell:NW:1.0.0=Novell:Startup:1.0.0,Novell:SYS:1.0.0,Novell:DriverFiles:1.0.0
Novell:Startup:1.0.0=Novell:StartupDirectory:1.0.0
Novell:SYS:1.0.0=Novell:SYSDirectory:1.0.0,Novell:ETCDirectory:1.0.0,Novell:PROFINST_NODE:1.0.0
Novell:DriverFiles:1.0.0=Novell:LANFiles:1.0.0,Novell:SBDFiles:1.0.0
Novell:NDPS Server Files:1.0.0=Novell:NDPS System:1.0.0,Novell:NDPS
Public:1.0.0
Novell:Products:1.0.0=Novell:NICInstall:1.0.0
Novell:NICInstall:1.0.0=Novell:NICModule:1.0.0
Novell:NWUpdateGroup:1.0.0=Novell:NWUpdate:1.0.0
```

注: 目的に応じて、行を追加することもできます。ここに示したのは、[Selected Nodes] セクションに記述が必要な最低限の情報です。

[Selected Nodes] セクション

Prompt = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	はい
設定例	Prompt = True
用途	[Additional Products and Services] 画面を表示するかどうかを決定します。

Product Selection = <string>

デフォルト	(なし)
値	Default または Web
キーの必要性	いいえ
設定例	Product Selection = Web
用途	他の製品とサービスについて、どのバンドルをインストールするかを指定します。「Default」に設定すると、Web Services バンドルがインストールされます。「Web」に設定すると、Web Services バンドルに加え、WebSphere* Application Server もインストールされます。他の製品とサービスのバンドルをカスタマイズして指定したい場合、このキーは記述せず、次の項で説明しているように各製品を個々に指定してください。

Novell:Products:1.0.0 = <strings separated by commas>

デフォルト	Novell:NICInstall:1.0.0 注: 文字列「NICInstall」は、必ず指定してください。
値	Novell:NDPS:2.0.0 Novell:IpLdapService:3.0.0 Novell:IpCatalogService:1.0.0 Novell:IpWanmanService:1.0.0 Novell:SecuritySASInstall:1.0.0 Novell:PKIInstall:1.0.0 Novell:NICInstall:1.0.0 Novell:RAS:4.1.0 Novell:SMS:1.0.0 Novell:DNS_DHCP:1.0.0
キーの必要性	はい
設定例	Novell:Products:1.0.0=Novell:NICInstall:1.0.0,Novell:NDPS:2.0.0
用途	サーバにインストールする他の製品とサービスを指定します。

サーバに複数の製品をインストールする

サーバに複数の製品をインストールする場合には、設定例で示したとおり、Novell:Products:1.0.0 キーにカンマで区切られた複数の値が与えられていることを確認してください。

製品キーと値

[Novell:Products:1.0.0] キーで製品を指定するのに加えて、[Selected Nodes] セクションでは各製品に固有のキーと値を指定します。各製品のキーと値を次に示します。このキーや値を直接ファイルに記述するよりも、以前のインストールで使用したレスポンスファイルを再利用することをお勧めします。次に示す内容が正確に入力されなかった場合、NetWare インストールは突然停止し、トラブルシューティングに役立つ情報も表示されません。

Novell 分散プリントサービス (NDPS)

```
Novell:NDPS:2.0.0=Novell:NDPS Server Files:1.0.0,Novell:NDPS Resource Files:1.0.0  
Novell:NDPS Resource Files:1.0.0=Novell:NDPS Banner:1.0.0,Novell:NDPS Font:1.0.0,Novell:NDPS Prndef:1.0.0,Novell:NDPS Prndrv:1.0.0  
Novell:NDPS Prndrv:1.0.0=Novell:NDPS Prndrv W31:1.0.0,Novell:NDPS Prndrv
```

W95:1.0.0,Novell:NDPS Prndrv NT4:1.0.0

LDAP サービス

Novell:SecuritySASModule:1.0.0=Novell:SASFiles:1.0.0
Novell:PKIModule:1.0.0=Novell:PKIFiles:1.0.0

NDS カタログサービス

Novell:IpCatalogService:1.0.0=Novell:DfgCatalogService:1.0.0

WAN トラフィックマネージャサービス

Novell:IpWanmanService:1.0.0=Novell:DfgWanmanService:1.0.0

セキュリティ認証サービス

Novell:SecuritySASInstall:1.0.0=Novell:SecuritySASModule:1.0.0,Novell:PKIModule:1.0.0,Novell:NICIModule:1.0.0
Novell:SecuritySASModule:1.0.0=Novell:SASFiles:1.0.0
Novell:PKIModule:1.0.0=Novell:PKIFiles:1.0.0

Novell PKI サービス

Novell:PKIInstall:1.0.0=Novell:PKIModule:1.0.0,Novell:NICIModule:1.0.0
Novell:PKIModule:1.0.0=Novell:PKIFiles:1.0.0

Novell インターネットアクセスサーバ

Novell:RAS:4.1.0=Novell:RAS Server
Files:1.0.0,Novell:SVCDEF_NODE:1.0.0,Novell:SupportedOS:1.0.0,Novell:UpgradeFrom:1.0.0
Novell:RAS Server Files:1.0.0=Novell:RAS System Connect:1.0.0,Novell:RAS System
Connect Scripts:1.0.0,Novell:RAS Public:1.0.0

ストレージ管理サービス (SMS)

Novell:SMS:1.0.0=Novell:SMSFiles:1.0.0
Novell:SMSFiles:1.0.0=Novell:SMSSystemFiles:1.0.0,Novell:SMSPublicFiles:1.0.0

Novell DNS/DHCP サービス

このサービスのインストールでは、追加のキーや値は使用しません。

その他のサービス

NetWare で利用できるその他のサービスのうち、LDAP サービスと Novell® DNS/DHCP サービスの 2 つには、設定用のデータ入力画面があります。このサービスについては、前の項で説明したキーと値に加えて、レスポンスファイルに専用のセクションを記述する必要があります。

注：キーや値を入力する際には、大文字と小文字を区別して入力するように注意してください。

[LDAP] セクション

prompt = <string>

デフォルト	(なし)
値	True または False
キーの必要性	はい
設定例	prompt=false
用途	LDAP 設定画面を表示するかどうかを決定します。

adminID = <string>

デフォルト	(なし)
値	(NDS 識別名)
キーの必要性	はい
設定例	adminID=.CN=admin.O=install
用途	管理者名と NDS コンテキストを指定します。この内容はレスポンスファイルの [NWI:NDS] セクションで指定されている、[Admin Login Name] と [Admin Context] に対応している必要があります。文字列の大文字小文字の区別に注意してください。

installCatalog = <string>

デフォルト	(なし)
値	True または False
キーの必要性	はい
設定例	installCatalog=false
用途	LDAP カタログをインストールするかどうかを決定します。 次の質問に対応します。「Enable use of LDAP catalog?」

useCatalogOnly = <string>

デフォルト	(なし)
値	True または False
キーの必要性	はい
設定例	useCatalogOnly=false
用途	LDAP カタログを検索に限って使用するかどうかを決定します。 LDAP 画面の、次のプロンプトに対応します。「Catalog Usage for Searching」

[Novell:DNS_DHCP:1.0.0] セクション

Prompt = <string>

デフォルト	なし
値	True または False
キーの必要性	はい
設定例	Prompt=false
用途	DNS/DHCP 設定画面を表示するかどうかを決定します。

TreeName = <string>

デフォルト	(なし)
値	(テキスト)
キーの必要性	はい
設定例	TreeName=Novell
用途	DNS/DHCP サービスをインストールする NDS ツリーの名前を指定します。

UserName = <string>

デフォルト	(なし)
値	(NDS 識別名)
キーの必要性	はい
設定例	UserName=.CN=admin.O=install
用途	管理者名と NDS コンテキストを指定します。この内容はレスポンスファイルの [NWI:NDS] セクションで指定されている、[Admin Login Name] と [Admin Context] に対応している必要があります。文字列の大文字小文字の区別に注意してください。

ExtendDNIPSchema = <string>

デフォルト	(なし)
値	True または False
キーの必要性	はい
設定例	ExtendDNIPSchema=true
用途	DNS/DHCP サービスのためにスキーマを拡張するかどうかを決定します。「True」に設定してください。

LocatorNDSContext = <string>

デフォルト	(なし)
値	(NDS 識別名)
キーの必要性	はい
設定例	LocatorNDSContext=O=install
用途	ローケータオブジェクトがインストールされる NDS コンテキストを指定します。

GroupNDSContext = <string>

デフォルト	(なし)
値	(NDS 識別名)
キーの必要性	はい
設定例	GroupNDSContext=O=install
用途	グループオブジェクトがインストールされる NDS コンテキストを指定します。

RootSrvrNDSContext = <string>

デフォルト	(なし)
値	(NDS 識別名)
キーの必要性	はい
設定例	RootSrvrNDSContext=O=install
用途	RootSrvr Zone がインストールされる NDS コンテキストを指定します。

このセクションで指定する NDS/DHCP キーに加え、[Settings] セクションに次のエントリを含む行を追加する必要があります。

Novell:DNS_DHCP:1.0.0=

CD 起動とレスポンスファイル

NetWare インストールへのレスポンスファイルの受け渡しには、2つのオプションを指定できます。コマンドラインで /RF スイッチを使用するか、[Install Options] 画面から指定します。

NetWare CD から直接起動してインストールを開始した場合、C:\NWUPDATE ディレクトリに RESPONSE.TXT ファイルがなければ、レスポンスファイルを自動的に渡すことができません。NetWare CD が起動されると、スタートアップユーティリティは C:\NWUPDATE ディレクトリで RESPONSE.TXT ファイルを探します。そのファイルが存在した場合、インストールプログラムは DOS パーティショニングユーティリティを省略し、RESPONSE.TXT を入力レスポンスファイルとして使用します。

インストールスクリプトを利用したインストールのカスタマイズ

NetWare では、インストールスクリプトは NWCONFIG ユーティリティと NetWare インストールシステムによってサポートされます。

注: インストールスクリプトの使用法の詳細については、「[Automating the NetWare Installation with a Response File \(http://www.developer.novell.com/research/appnotes/1998/december/a1frame.htm\)](http://www.developer.novell.com/research/appnotes/1998/december/a1frame.htm)」および「[More About Automating the NetWare Installation with a Response File \(http://www.developer.novell.com/research/appnotes/1999/february/a3frame.htm\)](http://www.developer.novell.com/research/appnotes/1999/february/a3frame.htm)」を参照してください。

NetWare インストールでは、インストールスクリプトを使用できるタイミングは2回あります。

- 予備的なファイルのコピーが終了したとき(インストールのグラフィカルインタフェースを起動する直前)。この時に実行するタイプのインストールスクリプトを利用して、DOS パーティションから SYS ボリュームにファイルをコピーできます。
- NetWare インストールが終了したとき。終了画面で「AOK@」または「ANo@」と応答した後、インストールクリーンアッププロセスが開始される前に、インストールスクリプトが呼び出されます。このタイプのインストールスクリプトは、ファイルを管理したり、NetWare インストールの一部として NLM プログラム(他の製品をインストールするプログラムなど)を起動したい場合に便利です。

次に示すレスポンスファイルの構文は、NetWare インストールでインストールスクリプトを実行するのに使用されます。

[NW1:Install Script] セクション

Script Location = <string>

デフォルト	なし
値	(全体で 255 文字までの、実在する DOS パス)
キーの必要性	いいえ
設定例	Script Location = C:%NWUPDATE%PRECOPY.IC?
用途	予備的なファイルのコピーが終了したとき (インストールのグラフィカルインタフェースを起動する前) に実行されるインストールスクリプトの、ファイル名とパスを指定します。 注: ファイル名の拡張子にワイルドカード「?」を使用すると、指定したファイルが存在しないときに発生するエラーが抑制されます。

Support Pack Script = <string>

デフォルト	Support Pack Script = C:%spack%silent.ics
値	(全体で 255 文字までの、実在する DOS パス)
キーの必要性	いいえ
設定例	サポートパックのイメージが C: ドライブにある場合には、次のパスを使用します。Support Pack Script=c:%nw51sp1%spack.ips e=c:%facterr.log s=c:%nw51sp1 サポートパックのイメージが、マウントされている CD-ROM にある場合には、次のパスを使用します。Support Pack Script=NW51:%spack.ips e=c:%err.log s=NW51:% サポートパックのイメージがリモートサーバにある場合には、次のパスを使用します。Support Pack script=prv-athena%images:nw5%cobra%sp1 128.524%spack.ips TRANSPORT=IPX u="SITESTER2" a=01010155:000000000001:0451 DS c="CN=SITESTER2.OU=INSTALL.OU=DEV.O=NOVELL" z=PRV-ATHENA-TREE e=C:%err.log s=PRV-ATHENA%IMAGES:NW5%COBRA%SP1 128.524
用途	インストールの最後に実行されるインストールスクリプトのファイル名とパスを指定します。

Close Script = <string>

デフォルト	なし
値	(全体で 255 文字までの、実在する DOS パス)
キーの必要性	いいえ
設定例	Script Location = SYS:¥OTHER.ICS
用途	NetWare サーバインストールの最終画面が閉じられたときに実行される、インストールスクリプトのファイル名とパスを指定します。 注: このスクリプトは、Close Screen ルーチンがいくつかのハウスキーピングを行う直前に実行されます。

ファクトリインストールの実行

ファクトリインストールを行うと、インストールにかかる手間と時間を減らすことができます。NetWare インストールのグラフィカルインタフェース部分を設定するだけでオンサイト設定を完了できるようにするために、ハードウェア設定とファイルのコピーのほとんどが工場で行われます。ネットワークオペレーティングシステムのファイルがあらかじめサーバにコピーされているため、インストールにかかる時間は数分間に短縮されます。

ファクトリインストールでは、NetWare のインストールを 2 段階に分けて実行します。

- ◆ 第 1 段階では、インストールの手順のうち、ディスクの検出、ディスクのパーティショニング、ボリューム SYS の作成、ファイルのコピーが実行されます。この段階は、工場や設定センターで行われます。
- ◆ 第 2 段階は、ユーザに関する設定が中心です。この段階に含まれるのは、サーバ名の設定、プロトコルのバインディング、SYS 以外のボリュームの作成、タイムゾーンの設定、NDS の設定、ライセンスの設定、他の製品の設定です。この段階は、サーバを設置した場所でユーザが実行します。

第 1 段階が完了したら、コンピュータを再起動するか電源を切ります。コンピュータの電源を投入し、サーバが起動すると、AUTOEXEC.NCF ファイルにより Java* が起動され、インストールの第 2 段階が開始します。

ファクトリインストールは、次に説明するレスポンスファイルのセクションを使用して実行されます。デフォルトのファクトリインストールレスポンスファイルは、NetWare オペレーティングシステム CD の ¥INSTALL ディレクトリにある FACTORY.TXT と RESPONSE.TXT を組み合わせで作成できます。

[NWI:Factory] セクションの Preinstall キーは、NetWare インストールにファクトリインストールを実行させる主キーです。他のセクションの Precopy キーは、NetWare インストールの最後のファイルコピールーチンでそのファイルグループを再コピーするかどうかを指定します。「Precopy=True」に設定すると、ファイルの照合はされますが、コピーはされません。しかし、ファイル名がコピーステータスボックスに表示されるため、ファイルがコピーされているように見えます。

注：このファイル照合を実行するために、NetWare CD はファクトリインストールの第2段階で使用する必要があります。

自動インストールに必要なその他のキーについても、すべてレスポンスファイルに記述しておく必要があります。詳細については、[79 ページの「完全自動化インストールの実行」](#)を参照してください。

[NWI:Factory] セクション

Preinstall = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	はい
設定例	Preinstall = True
用途	NetWare インストールのファクトリインストールオプションを使用するかどうかを決定します。「Preinstall=True」に設定すると、このセクションの他のキーがチェックされます。

Copy Products to SYS = <string>

デフォルト	False
値	True または False
キーの必要性	いいえ
設定例	Copy Products to SYS = True
用途	第2段階で NetWare オペレーティングシステム CD を使用せずに製品を選択しインストールするために、NetWare インストール CD の products ディレクトリをボリューム SYS にコピーするかどうかを決定します。

Remove Directory = <local path>

デフォルト	(なし)
値	(全体で 255 文字までの、実在する DOS パス)
キーの必要性	いいえ
設定例	Remove Directory = SYS:%PRODUCTS
用途	第2段階の最後に、システムからディレクトリを削除します。

[Novell:StartupDirectory:1.0.0] セクション

Precopy = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	いいえ
設定例	Precopy = True
用途	インストールイメージの %STARTUP%NLS ディレクトリに含まれ、C:%Startup_Directory%NLS ディレクトリにコピーされるファイルを、第2段階でコピーするかどうかを決定します。「Precopy = True」の場合、最後のファイルコピールーチンでファイルは再コピーされません。

[Novell:SYSDirectory:1.0.0] セクション

Precopy = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	いいえ
設定例	Precopy = True
用途	インストールイメージの %STARTUP%NLS ディレクトリに含まれ、C:%Startup_Directory%NLS ディレクトリにコピーされるファイルを、第2段階でコピーするかどうかを決定します。「Precopy = True」の場合、最後のファイルコピールーチンでファイルは再コピーされません。

[Novell:ConfigDirectory:1.0.0] セクション

Precopy = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	いいえ
設定例	Precopy = True
用途	インストールイメージの %CONFIG ディレクトリにあり、ボリューム SYS にコピーされるファイルを、第2段階でコピーするかどうかを決定します。「Precopy = True」の場合、最後のファイルコピールーチンでファイルは再コピーされません。

[Novell:LANFiles:1.0.0] セクション

Precopy = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	いいえ
設定例	Precopy = True
用途	インストールイメージの %DRIVERS%\LAN ディレクトリにあり、SYS:SYSTEM ディレクトリにコピーされる LAN ファイルを、第 2 段階でコピーするかどうかを決定します。「Precopy = True」の場合、最後のファイルコピールーチンでファイルは再コピーされません。

[Novell:SBDFiles:1.0.0] セクション

Precopy = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	いいえ
設定例	Precopy = True
用途	インストールイメージの %DRIVERS%\SBD ディレクトリにあり、SYS:SYSTEM ディレクトリにコピーされるファイルを、第 2 段階でコピーするかどうかを決定します。「Precopy = True」の場合、最後のファイルコピールーチンでファイルは再コピーされません。

[Novell:portalzip:1.0.0] セクション

Precopy = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	いいえ
設定例	Precopy = True
用途	zip ファイルに含まれている、ボリューム SYS にコピーするファイルを第 2 段階でコピーするかどうかを決定します。「Precopy = True」の場合、最後のファイルコピールーチンでファイルは再コピーされません。

[Novell:Rconjzip:1.0.0] セクション

Precopy = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	いいえ
設定例	Precopy = True
用途	zip ファイルに含まれている、ボリューム SYS にコピーするファイルを、第 2 段階でコピーするかどうかを決定します。「Precopy = True」の場合、最後のファイルコピールーチンでファイルは再コピーされません。

[Novell:Perl5zip:1.0.0] セクション

Precopy = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	いいえ
設定例	Precopy = True
用途	zip ファイルに含まれている、ボリューム SYS にコピーするファイルを、第 2 段階でコピーするかどうかを決定します。「Precopy = True」の場合、最後のファイルコピールーチンでファイルは再コピーされません。

[Novell:beanszip:1.0.0] セクション

Precopy = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	いいえ
設定例	Precopy = True
用途	zip ファイルに含まれている、ボリューム SYS にコピーするファイルを、第 2 段階でコピーするかどうかを決定します。「Precopy = True」の場合、最後のファイルコピールーチンでファイルは再コピーされません。

[Novell:nscriptzip:1.0.0] セクション

Precopy = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	いいえ
設定例	Precopy = True
用途	zip ファイルに含まれている、ボリューム SYS にコピーするファイルを、第 2 段階でコピーするかどうかを決定します。「Precopy = True」の場合、最後のファイルコピールーチンでファイルは再コピーされません。

[Novell:scripteszip:1.0.0] セクション

Precopy = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	いいえ
設定例	Precopy = True
用途	zip ファイルに含まれている、ボリューム SYS にコピーするファイルを、第 2 段階でコピーするかどうかを決定します。「Precopy = True」の場合、最後のファイルコピールーチンでファイルは再コピーされません。

[Novell:console1zip:1.0.0] セクション

Precopy = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	いいえ
設定例	Precopy = True
用途	zip ファイルに含まれている、ボリューム SYS にコピーするファイルを、第 2 段階でコピーするかどうかを決定します。「Precopy = True」の場合、最後のファイルコピールーチンでファイルは再コピーされません。

[Novell:ldapzip:1.0.0] セクション

Precopy = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	いいえ
設定例	Precopy = True
用途	zip ファイルに含まれている、ボリューム SYS にコピーするファイルを、第 2 段階でコピーするかどうかを決定します。「Precopy = True」の場合、最後のファイルコピールーチンでファイルは再コピーされません。

[Novell:wanmanzip:1.0.0] セクション

Precopy = <string>

デフォルト	True
値	True または False
キーの必要性	いいえ
設定例	Precopy = True
用途	zip ファイルに含まれている、ボリューム SYS にコピーするファイルを、第 2 段階でコピーするかどうかを決定します。「Precopy = True」の場合、最後のファイルコピールーチンでファイルは再コピーされません。

インストールコマンドラインオプション

次に、インストールの実行ファイルを起動する際に使用するコマンドラインオプションを示します。

/SERVER_LOG = <string>

デフォルト	(なし)
値	(全体で 255 文字までの、実在する DOS パス)
キーの必要性	いいえ
設定例	Install /LOG=C:¥TMP¥ERROR.LOG
用途	インストールログファイルを作成する場所を指定します。

/IIPX <decimal number> または /SERVER_ID <hexadecimal number>

デフォルト	(なし)
値	1 ~ FFFFFFFF
キーの必要性	いいえ
設定例	Install /IIPX 38483933 または Install /SERVER_ID 38483933
用途	特定の内部ネットアドレスを、インストールを行うサーバで使用できるようにします。

3

NewWare のインストールスクリプト

警告：本マニュアルで説明するソフトウェアには、予告なく変更が加えられる可能性があります。Novell 社では、できるだけ新しい内容をマニュアルに盛り込む努力をしておりますが、ユーザは本マニュアルの情報に基づいてコードを開発または管理する場合に生じるリスクを想定しておく必要があります。Novell 社は、本マニュアルに記載されているソフトウェア機能に関するサポートを予告なく終了する場合があります。

この章では、NetWare[®] がサポートするインストールスクリプトについて説明します。NetWare インストールスクリプトを使用すると、次のことができます。

- ◆ パッケージ化されている NetWare のインストールプロセスを変更または拡張する。
- ◆ オペレーティングシステムをインストールした後に、NetWare サーバに他の製品またはサービスをインストールする。

NetWare インストールスクリプトの使用

NetWare 6 では、NetWare インストールスクリプトは NWCONFIG.NLM プログラムが処理します。

注：NetWare 4 では、INSTALL.NLM がスクリプトコマンドを処理します。

スクリプトファイル

スクリプトファイルは、ASCII 形式のテキストファイルです。次のいずれかの拡張子を持つ、8 文字までのファイル名が与えられます。

拡張子	ファイルのタイプ
.IPS	個々の製品のインストール
.ICS	スクリプトの共通機能、または言語に依存しないスクリプト
.ILS	言語固有の機能

スクリプトファイルを起動する

- 1 サーバコンソールで、「**NWCONFIG.NLM**」と入力します。
- 2 [Configuration Options] 画面で [Products Options] をクリックします。
- 3 [Other Installation Actions] メニュー > [Install a product not listed] の順にクリックします。
- 4 <F3> キーを押し、スクリプトファイルのディレクトリパスを指定します。

最初にそのディレクトリパスで、.IPS ファイルが検索されます。.IPS ファイルが 1 個だけ検出された場合、そのファイルが実行されます。2 個以上検出された場合には、最初に検出されたファイルだけが実行されます。.IPS ファイルが存在しなければ、PINSTALL.NLM がロードされ、実行されます。製品がインストールされているか確認できるように、IPS ファイルの最初の @Other...@EndOther 記述子が表示されます。

NetWare インストールプログラムは、コマンドラインパラメータ「B=」を含むすべてのファイルをロードします。たとえば、「**LOAD NWCONFIG b=A:¥myscript.IPS**」という行を入力してスクリプトを実行します (*myscript* は .IPS ファイルの名前を表しています)。

NetWare 6 でスクリプトを使用する

インストールでスクリプトを起動できるタイミングは 2 回あります。

- ◆ 予備的なファイルのコピーが終了したとき (インストールのグラフィカルインタフェースを起動する直前)
- ◆ インストールが終了したとき

詳細については、「Using a Response File with NetWare」を参照してください。

テキストベースのファイルをコピーする際、NetWare インストールプログラムは 1 つのインストールスクリプト (NETWARE.ILS) を使用しています。このスクリプトファイルに修正を加え、他のファイルをコピーさせたり他のプロセスを起動させたりすることができますが、このような使用法はお勧めできません。

記述子とコマンド

このセクションでは、NETMAIN.ILS や他のインストールスクリプトファイルで使用する記述子やコマンドについて説明します。ユーザが作成する製品インストールスクリプトファイルにも、NETMAIN.ILS にあるものと同じタイプの記述子とコマンドを使用します。

記述子は、記号 @ から始まるキーワードです。インストール NLM は記述子をスキャンし、これを利用してリンクされたリストとメニューをメモリに構築します。記述子

- ◆ 設定または表示について記述します。手順や順番は指定しません。
- ◆ 一般的にブロック指向です (@Command や @EndCommand ステートメントを使用) が、1 行のものもあります。
- ◆ 本質的に宣言型です。
- ◆ ネストできません。

コマンドは、先頭に @ が付かないキーワードです。コマンドは、

- ◆ インストールの方法や順序を記述する (ディレクトリの作成、ファイルのコピーなど) 手続きです。
- ◆ 通常は、@FileSet...@EndFileSet 記述子ブロック内にまとめられます (独立している場合もあります)。
- ◆ スクリプトファイルに記述されている順序で実行されます。

スクリプトファイルでは、テキストを二重引用符で囲むことで自然言語を使用できます (インラインテキスト)。そのようなテキスト (メニュー項目、ヘルプテキストなどを含む) は、言語翻訳の対象として指定されます。

構文規則

- ◆ コマンドと引数では大文字小文字は区別されませんが、プロンプト文字列では区別されます。
- ◆ スクリプトパーサは、次の特殊文字を認識します。
= { } () , : - ; > < ! []
名前の中で特殊文字が使用されている場合には、名前全体を単一引用符または二重引用符で囲んでください。
- ◆ パーサは、単一引用符または二重引用符内の ANSI エスケープシーケンスを認識します。たとえば、'\xFF'、'\n'、'\t' は、それぞれ円記号、新しい行、タブを表します。
- ◆ NULL キャラクタ (ASCII 値 0) は、ファイルのどの部分にも使用できません。

コメント

構文

```
; <text>
```

説明

コメント(セミコロンの後に続くテキスト)は、説明の目的にのみ使用されます。スクリプトファイルの動作を起動させることはありません。コメント文字は行の最後まで読み込まれた後、破棄されます。

例

```
; THIS IS A COMMENT
```

記述子

@CDName

構文

```
@CDName <name>
```

説明

@CDName は、インストールする CD-ROM ボリュームの名前を指定します。CD-ROM を NetWare ボリュームとしてマウントするために、この名前は MOUNT コマンド(CD MOUNT <name>)の中で CDROM.NLM に渡されます。この記述子は CD-ROM 上のスクリプトでのみ使用できません。フロッピーディスク上のインストールスクリプトでは使用しないでください。BOOT ファイルセットで指定されている STARTUP ディレクトリに、CDROM.NLM をコピーしてください。

例

```
@CDName NETWARE5
```

インストールプログラムは CD-ROM を NetWare ボリュームとしてマウントしようするときに、文字列「NETWARE5」を使用します。CDROM.NLM のロードに成功すると、システムコンソールに「CD MOUNT NETWARE5」と表示されます。

@DeletePartition

構文

```
@DeletePartition <comma-separated list of partition types>
```

説明

@DeletePartition を使用すると、指定した既存のパーティションが削除されます。これに対し、インストール NLM の自動パーティション生成では、次のリストにある最初の 2 タイプの既存パーティションが削除されます (デフォルト設定)。どちらの場合にも、アクティブなパーティションはそのまま残されます。

パーティションタイプ	説明	削除の有無
64	NetWare 286	はい
65	NetWare 386	はい
01	DOS、12 ビット FAT	いいえ
04	DOS、16 ビット FAT	いいえ
05	拡張パーティション	いいえ
06	巨大な DOS パーティション	いいえ

これらのタイプのパーティションで削除したくないパーティションがある場合、あるいは他のタイプのパーティションを追加したい場合には、@DeletePartition を使用してリストを置き換えてください。

例

NETMAIN.ILS に次の記述があった場合、NetWare 386 パーティションだけが削除されます。

```
@DeletePartition 65
```

@Driver
@EndDriver

構文

```
@Driver
  Help: "Help description for finding drivers"
  [Dir: <DSK | LAN>, <subdirectory name>, <vol label>,
    <disk description>]
  [Dir: <DSK | LAN>, <subdirectory name>, <vol label>,
    <disk description>]
  ...
@endDriver
```

説明

@Driver には、メンテナンスモードインストールでドライバ (またはドライバを収めているディスクとディレクトリ) を検索する際の、ヘルプを指定します。<subdirectory name> には、読み込みを行うディレクトリを指定します。フロッピーまたはネットワークによるインストールでは、通常は空白 (NULL) を指定します。CD-ROM の場合は一般的に、ドライバが置かれている共通ディレクトリを指定します。<vol label> はメディアボリューム名に対応します。<disk description> には、インクルードファイルが収められているメディアに印刷された名前を指定します。@Driver は NETMAIN.ICS ファイルで使用します。

変数	説明
<subdirectory name>	読み込みを行うディレクトリを指定します。フロッピーまたはネットワークによるインストールでは、通常は空白 (NULL) を指定します。CD-ROM の場合は一般的に、ドライバが置かれている共通ディレクトリを指定します。
<vol label>	対応するメディアボリュームの名前を指定します。
<disk description>	インクルードファイルを収めたメディアに印刷されている名前を指定します。

例

```
@Driver
  Help: "If installing from a floppy, disk drivers will be on
  disk NetWare-2 and LAN drivers will be on disk NetWare-3.
  If installing from CDROM, all drivers will be in the
  directory <cdrom drive>:¥NW40¥SERVER¥DRIVERS."
  Dir: DDSK, ' ', 'NETWARE-2', 'NetWare-2'
  Dir: LAN, ' ', 'NETWARE-3', 'NetWare-3'
@endDriver
```

ディスク NetWare-2 では、.DSK と .DDI ファイルがスキャンされます。
ディスク NetWare-3 では、.LAN と .LDI ファイルがスキャンされます。

@FileSet
@EndFileSet

構文

```
@FileSet
  Description: "...[fileset description]..."
  Class: {MANDATORY | CORE | OPTIONAL | OPTIONAL_OFF |
        BOOT}
  Name: <text name - no spaces allowed>
  Bytes: <total transfer size for this fileset>
  [DiskBytes: <total disk space for this fileset>]
  [Attribute: <attribute1>, <attribute2>]
  [Flags: <flags>]
  <fileset commands...See 106 ページの「構文」.>
@endFileSet
```

説明

@FileSet を使用して、コピーの対象となる論理的に類似したグループのファイル、およびそのファイルのコピーとインストールに必要なコマンドを指定します。

OPTIONAL と OPTIONAL_OFF クラスのファイルセットの場合、コピー前に、Description と DiskBytes の情報がメニューに表示されます。ファイルのコピーの間に、全ファイルセットの説明が表示されます。Bytes の情報は、ステータスバーの更新と表示に利用されます。ステータスバーは、選択した全ファイルセットに対してコピーするバイト数の合計を表します。

Class では、ファイルセットの使用方法を指定します。

ファイル	アクション
MANDATORY	常に実行されます。
CORE	連続インストールでは常にコピーされますが、選択インストール/維持モードではコピーするかどうかを選択できます。
OPTIONAL	コピーするかどうかを選択する表示が現れます。デフォルトで [on] (コピーする) が選択されています。
OPTIONAL_OFF	コピーするかどうかを選択する表示が現れます。デフォルトで [off] が選択されています。

ファイル	アクション
BOOT	インストールの種類と、サーバがインストールを行うディレクトリから起動されるかどうかによって、コピーの可否が決まります。

すべてのクラスのファイルに対して、ファイルのコピーの際にファイルグループステータスが表示されます。ステータスには、コピー中のファイル名とコピーが完了したファイルセットのパーセンテージも含まれています。

Name 行は、論理ファイルセットを相互に関連付ける際に使用します。ファイルセットが互いに異なる対象ファイルで宣言されている場合にも使用できます。同じ論理名を持つファイルセットが複数ある場合、すべてのファイルセットに1つの **Description** と1つのクラスが適用されます。たとえば「OS2」という名前をもつファイルセットが複数宣言され、クラスが **OPTIONAL** だった場合、「OS2」ファイルの **Description** エントリだけが選択肢としてユーザに提示されます。ユーザがこれを選択すると、「OS2」という名前のファイルセットすべてがコピーされます。

BOOT ファイルには、**SERVER.EXE**、**SERVER.MSG**、**NWCONFIG.NLM**、**NWCONFIG.MSG**、**NUT.NLM**、**NUT.MSG** などがあります。**BOOT** ファイルセットは、内部でのみ使用できます。製品ファイルで **BOOT** ファイルセットを宣言することはできません。**BOOT** ファイルを圧縮したり、リネームしたりしないでください。

Attribute の値に、最後のファイル属性を指定します。**attribute1** のデフォルト値は **00060081**(読み込み専用、共有可能、リネーム禁止、削除禁止)です。

DOS ファイルの場合

Attribute1	意味
00000001	読み込み専用
00000002	隠し
00000004	システム
00000008	ボリュームラベル

NetWare ファイルの場合

Attribute1	意味
00000001	読み込み専用
00000002	隠し
00000004	システム
00000008	実行ファイル
00000010	サブディレクトリ
00000020	アーカイブ
00000080	共有可能
00000700	Smode
00001000	トランザクション
00004000	読み込み監査
00008000	書き出し監査
00010000	即時パーージ
00020000	名前変更禁止
00040000	削除禁止
00080000	コピー禁止

Attribute2 の意味は 00000001(ファイルの復元または処理の禁止) です。Attribute2 のデフォルト値は 0 です。通常環境ではこの設定を使用します。

フラグ	意味
00000001	カスタムインストールの場合にのみ行います。
00000002	第1段階のコピーで行います (ビットリセット = 第2段階)。
00000004	NetWare for OS/2* の場合にのみ行います。
00000008	ネイティブの場合にのみ行います (SFT III™ または NetWare for OS/2 以外)。

フラグ	意味
00000010	SFT III の場合にのみ行います。
00000020	簡素化インストールでのみ行います。
00000040	メンテナンスモードでのみ行います。
00000080	アップグレードの場合にのみ行います。
00000100	フロントエンド (NWNSTLL.EXE) からインストールする場合にのみ行います。
00000200	フロントエンド (NWNSTLL.EXE) からインストールしない場合にのみ行います。

例

```

@FileSet
  Class: CORE
  Name: SYSTEM_FILES
  Description: "System Files"
  Bytes: 10192463
  CopyToServer 'SYSTEM', '*.*', 'SYSTEM-1', "NetWare System-1 Files"
@EndFileSet

```

この例では、*. * ファイルがボリューム SYSTEM-1: からコピーされ、コピー中にはコピーの進行状況がパーセンテージで表示されます。

```

@IncludeFile
@EndIncludeFile

```

構文

```

@IncludeFile
  File: <filename>
  [DiskDescription: "...[disk description]..."]
  [DiskVolume: 11 char vol name]
@EndIncludeFile

```

説明

@IncludeFile を使用して、ファイル (<filename>) に構文解析コマンドと実行コマンドを指定します。DiskDescription では、インクルードファイルの位置を示すメディアに印刷されている名前を指定します。DiskVolume は、対応するメディアボリューム名です。

コマンドファイルを収めたディレクトリが最初に検索されます。インクルードファイルがそこになかった場合、指定されたディスクボリュームがチェックされます。<filename> が <path>¥<file> の組み合わせになっている場合、まず最初にコマンドファイルディレクトリで <file> の有無がチェックされ、次に <path> オフセットのディスクボリュームがチェックされます。<file> にワイルドカード記号が含まれている場合には、そのパターンに一致するすべてのファイルが対象になります。ワイルドカードを含むファイル名に一致するファイルがなかった場合、対象ファイルは選ばれず、エラーも発生しません。ワイルドカードを含まないファイル名のファイルが検出されなかった場合は、エラーが発生します。単一引用符で囲まれた %**{NWLANG}** を含むファイル名は、%**{NWLANG}** 部分が言語番号 (4= 英語) で置き換えられます。

例

NETMAIN.ILS ファイルに対する設定です。ここでは、NETMAIN.ICS は NETMAIN.ILS と同じディレクトリにないものとします。

```
@IncludeFile
  File: NETMAIN.ICS
  DiskDescription: '[1]'
  DiskVolume: SYSTEM-1
@EndIncludeFile
```

このファイルは @EndIncludeFile ステートメントの直後から構文解析されます。NETMAIN.ILS のあるディレクトリで NETMAIN.ICS を検出できなかった場合、CD を要求するメッセージを表示し、CD がドライブにセットされるとそこから NETMAIN.ICS を読み込んで構文解析します。

```
@MessageFile
@EndMessageFile
```

構文

```
@MessageFile
  File: <filename>
  [Version: <message file version number>]
@EndMessageFile
```

説明

@MessageFile を使用して、メッセージ文字列を含むファイル (一般的には .MSG という拡張子のファイル) を指定します。通常、このファイルはスクリプトファイルと同じディレクトリか、NLS サブディレクトリにあります。スクリプトファイルの残りの (@IncludeFile を含む) 部分を構文解析する場合、名前変数 <message file version number> が見つかったときに、この記号はメッセージファイルの定義で置き換えられます。

メッセージファイルの検索順序は次のとおりです。

1. 現在のディレクトリ
2. 現在の言語に対応する NLS ディレクトリ
3. *<message file version number>* 「文字列」のデフォルトの定義

Version は、スクリプトファイルとメッセージを最終的に同期させるために使用します。Version を指定しない場合、バージョンのチェックは実行されません。現状では、@Version 記述子の有無に関わらず、バージョンのチェックは実行されません。

例

NETMAIN.ILS ファイル (NETMAIN.MSG と同じディレクトリにある) を使用した場合の設定です。

```
@MessageFile
  File: NETMAIN.MSG
@endMessageFile
```

NETMAIN.MSG はメモリに読み込まれ、*<message file version number>* 文字列を逆参照するために使用されます。

```
@StartAppObject
@endAppObject
```

構文

```
@StartAppObject
  AppPlatform: <Supported Platforms>
  AppName: <Name of the object to create>
  AppPath: <UNC Path to the executable>
  [AppDescription: "...Text..."]
  [AppContact: <List of contacts>]
  [AppMapping: <List of drive mappings>]
  [AppFlags: <>]
  [AppIcon: <Filename of Icon>]
  [AppCaption: "...Text..."]
  [AppParameters: <List of Parameters for AppPath>]
  [AppPrinter: <Printer Ports>]
  [AppShutdownScript: <Filename of Script>]
  [AppStartupScript: <Filename of Script>]
  [AppWorkingDir: <Startup directory for App>]
  [AppUser: <List of users>]
  [AppAdminNotes: "...Text..."]
  [AppFaultTolerance: <List of fallover apps>]
  [AppLoadBalancing: <List of load balancing apps>]
@endAppObject
```

説明

@StartAppObject を使用して、Novell® Application Launcher™ (NAL) 製品と共に使用する NDS オブジェクトを作成します。NetWare for Small Business で使用します。

変数	説明
AppPlatform	アプリケーションオブジェクトが動作する、サポートプラットフォームのリスト。
AppName	NetWare アドミニストレータから見たオブジェクトの NDS 名。
AppPath	オブジェクトによって起動される実行ファイルの UNC パスとファイル名。
AppDescription	Novell Application Launcher に表示される説明。
AppContact	問題の解決のためにアプリケーションオブジェクトと通信するユーザネームのリスト。
AppMapping	アプリケーションを正しく動作させるために実行されるドライブマッピングのリスト。
AppIcon	アプリケーションアイコンのファイル名と位置。
AppWorkingDir	アプリケーションのスタートアップディレクトリ。
AppUser	アプリケーションの実行を承認されているユーザのリスト。

例

```
@StartAppObject
  AppPlatform: 3x 95 NT
  AppName: "Netscape Install"
  AppPath: "SYS\¥PUBLIC¥NETSCAPE¥NTSCINST.EXE"
  AppCaption: "Netscape Install"
  AppDescription: "Install the Netscape Internet browser"
  AppContacts: admin
  AppFlags: "No Cleanup"
  AppIcon: "sys:public¥netscape¥netscape.ico"
  AppWorkingDir: "sys¥public¥netscape"
  AppUsers: "All Users" Action Standard Desktop
@EndAppObject
```

この例では、「Netscape* install」という名前の NDS アプリケーションオブジェクトを作成します。NAL が実行中であれば、ユーザはこのオブジェクトをデスクトップにインストールするように指示されます。

構文

```
@Other  
  Description: "...[text]..."  
  [DiskDescription: "...[disk description]..." ]  
  [DiskVolume: <11 char vol name>]  
  [File: <filename>]  
  [Flags: <flags>]  
@EndOther
```

説明

Description は、@Other 設定オプションで表示されるメニューの説明です。このラベルは @Other オプションに含まれるラベルの中で、最初に記述する必要があります。

File を使用して、実行する *.IPS ファイル、または @Other オプションをインストールするためにロードする NLM を指定します。

DiskDescription は、ユーザに別のフロッピーディスクを要求する際に表示されるプロンプト名です。

DiskVolume は、DiskDescription で指定したディスクのボリューム名です。DiskVolume ラベルが定義されていると、ドライブ A:(ドライブはユーザが変更できます) で特定のボリュームを要求するメッセージが DiskDescription を使用して表示されます。これはファイルが検出されるか、ユーザがキャンセルするまで続きます。DiskVolume が定義されていない場合、インストールプログラムはドライブ A: に別のフロッピーディスクを要求するメッセージを表示し、ファイルを検出するか (File を定義した場合)、ユーザがキャンセルするまでこれを続けます。File を指定しないと、インストールプログラムはすべての *.IPS ファイル、または PINSTALL.NLM ファイルを検索します。

フラグ	意味
00000001	製品環境 (clib、btrieve、product.dat) をロードします。
00000002	プロダクトボックスに含まれるプロダクト (NETMAIN.ILS の説明)。
00000004	簡素化インストールで表示される製品を表示します。
00000008	簡素化インストールの場合にのみ製品を表示します。

フラグ	意味
0000010	メンテナンスインストールの場合にのみ製品を表示します。
0000020	アップグレードの場合にのみ製品を表示します。
0000040	NetWare for OS/2 のインストールの場合にのみ製品を表示します。
0000080	ネイティブインストールの場合にのみ製品を表示します。
0000100	SFT III のインストールの場合にのみ製品を表示します。
0000200	フロントエンド (NWNSTLL.EXE) から開始する場合にのみ製品を表示します。
0000400	フロントエンド (NWNSTLL.EXE) から開始しない場合にのみ製品を表示します。

検出されたファイルのファイル名の拡張子が .IPS であれば、スクリプトと見なされ構文解析されます。拡張子が .NLM であれば、そのファイルはロードされ、NLM として実行されます。

例

@Other

```

Description: "Install NetWare for Macintosh"
DiskDescription: 'NWM System 1'
DiskVolume: 'MAC-1'
File: PINSTALL.NLM

```

```

Description: "Install TCP/IP Protocol"
DiskDescription: 'TCPIP System 2'
DiskVolume: 'TCPIP-2'
File: TCPIP.IPS

```

@EndOther

メニュー項目 [Install NetWare for Macintosh*] および [Install TCP/IP Protocol] が表示されます。[Install NetWare for Macintosh] を選択すると、NWM システム 1 CD を要求するメッセージが表示されます。CD をセットすると、ボリューム MAC-1: にある PINSTALL.NLM が実行されます。[Install TCP/IP Protocol] を選択すると、TCPIP システム 2 CD を要求するメッセージが表示されます。CD をセットすると、コマンドファイル TCPIP.IPS が構文解釈されます。

@SyntaxVersion

構文

```
@SyntaxVersion <major version>.<minor version>
```

説明

SyntaxVersion 文字列は、スクリプトファイルパーサのバージョンを表します。SyntaxVersion 文字列はすべてのスクリプトファイルに記述します。パーサの構文バージョンが、スクリプトファイルの構文バージョンと一致する必要があります。

例

```
@SyntaxVersion 1.02
```

この文字列と、インストールユーティリティにある内部構文文字列が比較されます。2つの文字列が一致しなかった場合、インストールプログラムは他のファイルを要求するメッセージを表示します。

@SyntaxVersion 記述子を含むすべての対象スクリプトで、SyntaxVersion 文字列との照合が行われます (112 ページの「@IncludeFile @EndIncludeFile」を参照してください)。

@StartSchemaMod

@EndStartSchemaMod

構文

```
@StartSchemaMod  
  SchemaFileName: <Filename>, <Description>  
@EndSchemaMod
```

説明

@StartSchemaMod を使用すると、インストールスクリプト全体で NDS スキーマを拡張できます。

SchemaFileName にはスキーマファイルのファイル名を指定し、Description には変更の間に画面に表示されるメッセージを指定します。

例

```
@StartSchemaMod  
  SchemaFileName: "sys:YYsystemYYschemaYYnwadmin.sch",  
  "NetWare Administrator"  
@EndSchemaMod
```

この例では NWADMIN.SCH ファイルが NDS スキーマを拡張し、ディレクトリサービスをインストールする間、「NetWare Administrator」というメッセージを表示します。

@TimeZone
@EndTimeZone

構文

```
@TimeZone
  Description: <tz description>
  Standard: <tz abb.>, <tz adj.>
  [Daylight: <dst abb.>, <dst adj.>]
  [DSTStart: <start rule>, <seq number>, <day number>,
  <weekday number>, <month number>, <time>]
  [DSTEnd: <end rule>, <seq number>, <day number>,
  <weekday number>, <month number>, <time>]
@EndTimeZone
```

説明

Description には、時刻サービスをインストールする際に表示されるタイムゾーンの説明文を指定します。

Standard には、タイムゾーンが選択された後に表示する情報を指定します。この情報にはタイムゾーンの略語と、GMT(グリニッジ標準時)または UTC(協定世界時)との時差 (+/-x:xx:xx) が含まれます。

夏時間がある場合には、**Daylight** に指定します。ここには夏時間の略語と、標準時との時差 (+/-x:xx:xx) を指定します。

DSTStart と **DSTEnd** を使用して、夏時間の指定を行います。規則 (w は月の平日、d は日を表す)、通し番号 (1 から開始)、日番号 (1 から開始)、週番号 (1 から開始)、月番号 (1 から開始)、24 時間表示での時間を指定します。

通し番号の意味は次のとおりです。

1	1 日目	(日番号を無視)
2	2 日目	(日番号を無視)
3	3 日目	(日番号を無視)
4	4 日目	(日番号を無視)
5	5 日目	(日番号を無視)

通し番号の意味は次のとおりです。

6	最終日	(日番号を無視)
7	>= 日番号	
8	<= 日番号	

例

@TimeZone

```
Description: "United States, Mountain Time Zone",
Standard: "MST", '7:00'
Daylight: "MDT", '+1:00'
DSTStart: w, 1, 1, 1, 4, '2:00'
DSTEnd: w, 6, 1, 1, 10, '2:00'
```

```
Description: "United States, Central Time Zone",
Standard: "CST", '6:00'
Daylight: "CDT", '+1:00'
DSTStart: w, 1, 1, 1, 4, '2:00'
DSTEnd: w, 6, 1, 1, 10, '2:00'
```

@EndTimeZone

タイムゾーンが2つ表示されます。どちらかを選択すると、スクリプトの記述に従って時間パラメータに値が入力されます。ユーザはその値を確認でき、必要であれば編集できます。

@TranslateModule

@EndTranslateModule

構文

```
@TranslateModule
  <old driver name1>,<new driver name1>,
  <old driver name2>,<new driver name2>,
  ...
@EndTrandlateModuel
```

説明

@TranslateModule は、NETMAIN.ILS の内部で使用されます。以前のリリースから変更されたディスクドライバ名や LAN ドライバ名を指定します。名前はアップグレードの際に STARTUP.NCF または AUTOEXEC.NCF で変更されます。

@Version

構文

```
@SyntaxVersion <major version>.<minor version>
```

説明

@Version 文字列は、スクリプトファイルのバージョン (および対応するスクリプトデータ) を表します。NETMAIN.ILS スクリプトファイルの場合、@Version が示すバージョンはインストール NLM に要求されるバージョンと同等以上である必要があります。@Version を含む対象スクリプトファイルがいくつかある場合、各ファイルのバージョン番号はすべて一致している必要があります。@Version は、新しいスクリプトをリリースするたびに上げていきます。

製品スクリプトでは、バージョン文字列は完全なオプションになっています。製品スクリプトのバージョン文字列はインストール NLM のバージョンとは比較されませんが、対象となるすべての製品スクリプトに適合するバージョン文字列が含まれている必要があります。

例

```
@Version 1.01
```

インストールプログラムのバージョン文字列が、このバージョン文字列と比較されます。適合しなかった場合、インストールプログラムは他のファイルを要求するメッセージを表示します。@Version 記述子を含むすべての対象スクリプトで、バージョン文字列との照合が行われます (112 ページの「@IncludeFile @EndIncludeFile」を参照してください)。

コマンド

Command

構文

```
Command <command handler name>
```

説明

Command を使用して、ファイルに含まれていないコマンドのオプションコマンドハンドラの名前を指定できます。コマンドハンドラ名は 8 文字以下に設定し、外部コマンドエントリポイントをエクスポートする NLM の名前と一致させる必要があります。

例

Command ICMD.NLM

ICMD.NLM により、外部コマンドがサポートされます ([128 ページの「外部コマンドの構文」](#)を参照してください)。本マニュアルに記載されているコマンド構文だけではなく、他のコマンドもサポートされます。

CopyDriverToServer

構文

```
CopyDriverToServer <target_directory_path>, <file_spec>,  
<source_volume>, <source_description>
```

説明

CopyDriverToServer コマンドを使用して、<target_directory_path>にあるドライバファイルを新しいドライバファイルで置き換えることができます。ソースファイルは配布 CD (これはユーザ指定のディレクトリにコピーされていることもあります) に収められているものを使用します。

<file_spec> には、コピーするファイルの名前を指定します。ファイル名の形式は、*.LAN、*.DSK、<directory>/*.LAN、<directory>/*.DSK です。<source_volume> にはフロッピーディスクのボリュームラベル名を指定し、<source_description> にはフロッピーディスクを要求するメッセージの文字列を指定します。インストールソースが CD-ROM やネットワークドライブの場合、<source_volume> と <source_description> は無視されます (ただし、コマンドには記述する必要があります)。

例

```
CopyDriverToServer SYSTEM, '*.LAN', 'NETWARE-3', "NetWare  
diskette [3]"
```

*.LAN ファイルが SYS:SYSTEM ディレクトリにコピーされます。

CopyDriverToStartup

構文

```
CopyDriverToStartup <file_spec>, <source_volume>,  
<source_description>
```

説明

CopyDriverToStartup コマンドを使用すると、スタートアップディレクトリまたは起動ディレクトリ (STARTUP.NCF が置かれたディレクトリ) に

あるドライバファイルが新しいドライバファイルに置き換えられます。ソースファイルは配布 CD (これはユーザ指定のディレクトリにコピーされていることもあります) に収められているものを使用します。<file_spec> には、コピーするファイルの名前を指定します。ファイル名の形式は、*.LAN、*.DSK、<directory>/*.LAN、<directory>/*.DSK です。<source_volume> にはフロッピーディスクのボリュームラベル名を指定し、<source_description> にはフロッピーディスクを要求するメッセージの文字列を指定します。インストールソースが CD-ROM やネットワークドライブの場合、<source_volume> と <source_description> は無視されます (ただし、コマンドには記述する必要があります)。

例

```
CopyDriverToStartup '*.LAN', 'NETWARE-3', "NetWare diskette  
[3]"
```

サーバ起動ファイルが置かれた、ユーザ指定の DOS スタートアップディレクトリに、*.LAN ファイルがコピーされます。

CopyToServer

構文

```
CopyToServer <target_directory_path>, <file_spec>,  
<source_volume>, <source_description>
```

説明

CopyToServer を使用して、サーバのシステムボリュームにコピーするファイル (またはワイルドカードを使ったファイルのグループ) を指定します。

<target_directory_path> には、ファイルをコピーする SYS: への相対ディレクトリパスを指定します。<file_spec> には、コピーするファイルの名前を指定します。サブディレクトリからファイルをコピーする場合は、「ディレクトリ/ファイル名」の形で指定します。<source_volume> にはフロッピーディスクのボリュームラベル名を指定し、<source_description> にはフロッピーディスクを要求するメッセージの文字列を指定します。インストールソースが CD-ROM やネットワークドライブの場合、<source_volume> と <source_description> フィールドは無視されます (ただし、コマンドには記述する必要があります)。

例

```
CopyToServer 'SYSTEM', '*.*', 'SYSTEM-2', "NetWare diskette  
[4]"
```

DOS ファイル指定 (DOS ワイルドカードも含む) に一致するファイルが、ボリューム SYSTEM-2 (またはユーザが指定したハードディスクやネットワークディレクトリ) からディレクトリ SYS:SYSTEM にコピーされます。ボリューム SYSTEM-2 が存在しない場合は、NetWare CD をドライブに挿入するように指示するメッセージが表示されます。

CopyToStartup

構文

```
CopyToStartup <file_spec>, <source_volume>,  
<source_description>
```

説明

CopyToStartup コマンドを使用すると、ファイルをスタートアップディレクトリや起動ディレクトリ (STARTUP.NCF が置かれたディレクトリ) にコピーできます。ソースファイルは配布フロッピーディスク (これはユーザ指定のディレクトリにコピーされていることもあります) に収められているものを使用します。

<file_spec> に、コピーするファイルの名前を指定します。サブディレクトリからファイルをコピーする場合、<file_spec> は「ディレクトリ / ファイル名」の形で指定します。<source_volume> にはフロッピーディスクのボリュームラベル名を指定し、<source_description> にはフロッピーディスクを要求するメッセージの文字列を指定します。インストールソースが CD やネットワークドライブの場合、<source_volume> と <source_description> は無視されます (ただし、コマンドには記述する必要があります)。

例

```
CopyToStartup 'SERVER.EXE', 'SYSTEM-3', "NetWare diskette  
[3]"
```

サーバ起動ファイルが置かれているユーザ指定の DOS スタートアップディレクトリに、SERVER.EXE がコピーされます。

Exec

構文

Exec <*filename*>

説明

Exec コマンドを使用すると、オペレーティングシステムコマンド `LOAD<filename>` が発行されます。インストールプログラムは停止し、チャイルド NLM がアンロードされた後に再開します。¥SYSTEM 以外のシステムボリュームにある他のサブディレクトリからロードする場合は、ファイル名 (「SYS:ディレクトリ/ファイル名」または「ディレクトリ/ファイル名」) を指定します。

例

Exec MY.NLM

MY.NLM をロードし、実行します。Exec は MY.NLM を検索する際に、通常の NLM 検索パスを使用します。Exec が終了してアンロードした後に、制御権はインストールプログラムに戻ります。

ProductRecord

構文

ProductRecord <*product ID (string)*>, <*record type*>, <*record data*>

説明

ProductRecord コマンドを使用して、ID 文字列 <*product ID*> と指定したレコードタイプおよびデータを含むレコードを製品データベースの中に作成します。

レコードタイプ	データ
[0]	バージョン文字列 (10 文字まで)
[1]	製品の説明 (60 文字まで)
[2]	環境設定 NLM コマンドライン (255 文字まで)
[3]	環境設定テキストファイルの指定 (255 文字まで)
[4]	NLM コマンドラインのアンインストール (255 文字まで)

レコードタイプ	データ
[5]	AUTOEXEC 行の削除 (255 文字まで)
[6]	STARTUP 行の削除 (255 文字まで)
[7]	ファイル行の削除 (255 文字まで)

例

ProductRecord MYPROD, 1, "Description for my product"

この例では、引用符で囲んだ説明を含む「MYPROD」という ID の製品説明レコードが作成されます。

RegisterLanguage

構文

```
RegisterLanguage <language ID>, <language name>
```

説明

RegisterLanguage コマンドを使用すると、<language ID> が対応する名前 <language name> に変換されます。通常このコマンドは、非標準言語をインストールしたときにその言語を登録するために使用します。

例

RegisterLanguage 17, TURKISH

この例では、ID17 に TURKISH という別の名前が与えられます。

SaveLanguageFile

構文

```
SaveLanguageFile <file>
```

説明

SaveLanguageFile コマンドを使用すると、DOS スタートアップディレクトリに置かれたファイル <file> が、それまでの言語の ID と同じ名前のディレクトリ (<startup directory>/<old language ID>) にコピーされます。新しいディレクトリが作成される場合もあります。新しいファイルへのディレクトリパスが存在しない場合、そのディレクトリが作成されます。

例

SaveLanguageFile SERVER.MSG

現在の言語 ID が「4」であれば、DOS スタートアップディレクトリ (BOOT ディレクトリ) にある SERVER.MSG が、DOS スタートアップディレクトリのサブディレクトリ 4 にコピーされます。

Spawn

構文

Spawn <file name>

説明

Spawn コマンドにより、オペレーティングシステムコマンド LOAD<file name> が発行されます。その後、インストールプログラムは動作を再開します。125 ページの「Exec」を参照してください。

例

Spawn MY.NLM

この例では、MY.NLM ファイルをロードし、実行します。Spawn は MY.NLM を検索する際に、通常の NLM 検索パスを使用します。インストールプログラムとチャイルド NLM は、コンテキストスイッチを使用して CPU を共有するため、どちらのプログラムも実行されます。

外部コマンド

このセクションでは、NetWare インストール NLM (INSTALL.NLM、NWCONFIG.NLM) と似た役割を持つ ICMD.NLM がサポートするコマンドについて説明します。これらのコマンドをサポートする ICMD のバージョンについては、164 ページの「各バージョンで利用できる NetWare インストールコマンド」にある表を参照してください。

バージョン 2.10 外部コマンドの互換性

ICMD.NLM バージョン 2.18 以上を使用する場合には、この ICMD.NLM を SYS:SYSTEM にコピーしないでください。違うディレクトリにコピーし、そこからロードするようにしてください。

たとえば次に示すスクリプトコマンドを使用すると、ICMD.NLM は一時的なディレクトリにコピーされ、そこからロードされます。

```
CopyToServer SYSTEM¥TMP, ICMD.NLM, "", ""  
Command TMP¥ICMD
```

この手順は、SYS:SYSTEM に置かれた ICMD.NLM のバージョンを現在の 4.10 に保ち、この ICMD.NLM を利用する組み込み製品をすべて確実に動作させることを目的に行います。最新の ICMD.NLM に以前のバージョンと完全な互換性がある可能性もありますが、そのような面からの検証は十分には行われていません。

外部コマンドの構文

ICMD.NLM コマンドハンドラがサポートする外部コマンドを使用する場合には、スクリプトファイルにステートメントコマンド [*<filepath>*] ICMD を記述する必要があります。まず CopyToServer コマンドで ICMD.NLM を一時的なディレクトリ (SYS:SYSTEM¥TEMP など) にコピーし、次に Command コマンドでこのディレクトリから ICMD.NLM を実行します (「Command SYS:SYSTEM¥TEMP¥ICMD」などと指定します)。この手順を踏めば、SYS:SYSTEM の標準 ICMD.NLM を利用することから生じる互換性の問題を完全に回避できます。アプリケーション特有の機能を実行させるために、新しいコマンドを作成して独自のバージョンの ICMD.NLM (ファイル名は変更しておきます) に追加することができます。

コマンド

Activate

構文

```
Activate
```

説明

Activate コマンドを使用すると、インストール画面が起動されます。

例

```
Activate
```

この先のスクリプトで使用されるインストール画面が表示されます。

AppendFile

構文

```
AppendFile <src var name>, <src file spec>, <src vol name>,  
<src descr>, <dest var name>, <dest dir>, <dest vol name>,  
<dest descr>
```

説明

AppendFile コマンドを使用すると、ソースファイルの内容がターゲットファイルに追加されます。まずターゲットファイルと同じ大きさを持つ一時ファイルが作成され、次にそのファイルがターゲットファイルのファイル名に名前を変更されます。<src file spec> にワイルドカード記号を使用することはできません。

例

```
AppendFile input, file1, 'NETWARE-1', "NW [1]", output,  
file2, '', ''
```

まず、フロッピーディスク NW [1] を要求するメッセージが表示されます。フロッピーディスクをセットすると、ボリュームラベル NETWARE-1 が存在するかどうかのチェックが行われます。フロッピーディスク上の FILE1 の内容が、output に当たるディレクトリに置かれた FILE2 に追加されます。

AppendTextToFile

構文

```
AppendTextToFile <src var name>, <src file spec>, <src vol  
name>, <src descr>, <text>
```

説明

AppendTextToFile コマンドを使用すると、リテラルテキストの内容がターゲットファイルに追加されます。また、全エントリに日付のタイムスタンプが押されます。<src file spec> にワイルドカード記号を使用することはできません。

ファイルが検出されると、変数 NWSTATUS の値が 0 になります。検出されなければ、0 以外の値になります。

例

```
AppendTextToFile input, file1, 'NETWARE-1', "NW[1]",  
'Installation Complete'
```

まず、フロッピーディスク NW [1] を要求するメッセージが表示されます。フロッピーディスクをセットすると、ボリュームラベル NETWARE-1 が存在するかどうかのチェックが行われます。フロッピーディスク上の FILE1 の内容が、output に当たるディレクトリに置かれた FILE2 に追加されます。

CheckFile

構文

```
CheckFile <var name>, <file spec>, <vol name>, <description>
```

説明

CheckFile コマンドを使用すると、<var name> の値で指定したパスで <file spec> の有無がチェックされます。指定したパスがフロッピーディスクで、<vol name> に NULL 以外 (" 以外) の値を指定した場合、ドライブにディスクが挿入されていなければ、ディスク <description> を要求するメッセージが表示されます。

ファイルが検出されると、変数 NWSTATUS の値が 0 になります。検出されなければ、0 以外の値になります。

例

```
CheckFile NWSRC, file1.dat, '', ''
GotoIfNEqual '%{NWSTATUS}', 0, FileNotFound
File found
.
.
Label FileNotFound
```

この例では、ファイル FILE1.DAT の有無がチェックされます。NWSRC により指定されるパスでこのファイルが検出されると、実行位置は次の行に移ります。ファイルが検出されなければ、プログラムは「label FileNotFound」の行に分岐します。

Config

構文

```
Config <flag>
```

説明

Config コマンドを使用して、インストールプログラムから利用できるデフォルト情報を含んだ環境設定ファイルを作成します。<flag> が 1 であれば、SYS:SYSTEM に AUTOEXEC.NCF が作成されます。0 であれば、サーバ起動パスに STARTUP.NCF が作成されます。

例

Config 1

この例では、サーバ名、内部ネットアドレス、設定済み LAN ドライバのロードコマンドおよびバインドコマンド、ディレクトリサービス、タイムサービスの情報を含む AUTOEXEC.NCF が作成されます。SYS:SYSTEM に置かれていた既存の AUTOEXEC.NCF は、上書きされます。

Console

構文

```
Console <text>, <delay in seconds>
```

説明

Console コマンドを使用して、システムコンソール画面にテキストを入力します。また呼び出しプロセスに制御権を返す前に、<delay in seconds> 秒間の遅滞を発生させます。システムインストールプロセスはコンソールと異なるスレッドで実行されるため、Console コマンドが終了する前に次のコマンドが終了することがあります。delay を -1 に設定すると、システムコンソール画面のバッファにあるすべてのコマンドが処理されるまで Console コマンドは遅滞します。

例

```
Console 'load ne2000 frame=ethernet_802.3 int=3 port=300', 10  
Console 'bind ipx to ne2000 net=1240000', 3
```

このコマンドにより、NE2000™ ドライバがロードされ、IPX™ にバインドされます。

CopyFile

構文

```
CopyFile <recurse flag>, <directory flag>, <empty flag>,  
<attribute flag>, <attributes>, <src var name>, <src file  
spec>, <src vol name>, <src descr>, <dest var name>, <dest  
dir>, <dest vol name>, <dest descr>, [<conditional copy flag>]
```

説明

CopyFile コマンドを使用して、ソースパスからターゲットパスへファイル (<src file spec> にワイルドカードを使用できます) をコピーします。

<recurse flag> (0|1)

値	説明
0	サブディレクトリを再帰的にコピーしません。
1	サブディレクトリを再帰的にコピーします。

<directory flag> (0|1|2|3)

値	説明
0	ソースはファイルです。
1	ソース (<src file spec> を含む) はディレクトリです。ディレクトリの中身をターゲットにコピーします。
2	ソースとターゲットの両方がファイルです (ファイル間コピー)。 <directory flag> が 2 であれば、<recurse flag> を 0 にする必要があります。
3	ソース (<src file spec> を含む) はディレクトリです。同じディレクトリがターゲット側にも存在する場合にのみ、ディレクトリの中身がターゲットにコピーされます。

<empty flag> (0|1)

値	説明
0	ファイルが検出されなくてもエラーは発生しません。
1	ファイルが検出されないと、エラーが発生します。

<attribute flag> (0|1|2)

値	説明
0	デフォルトのファイルセット属性を使用します。
1	ソースファイルの属性を使用します。
2	<attributes> に指定した属性を使用します (DOS ドライブへコピーする場合には必ずこれを使用します)。

<attributes>

DOS ファイルの場合

属性	意味
00000001	読み込み専用
00000002	隠し
00000004	システム
00000008	ボリュームラベル

NetWare ファイルの場合

属性	意味
00000001	読み込み専用
00000002	隠し
00000004	システム
00000008	実行ファイル
00000010	サブディレクトリ
00000020	アーカイブ
00000080	共有可能
00000700	Smode
00001000	トランザクション

属性	意味
00004000	読み込み監査
00008000	書き出し監査
00010000	即時ページ
00020000	名前変更禁止
00040000	削除禁止
00080000	コピー禁止

予約済みのパス名 (<src|dest var name>) は NWSRC、NWDST、NWBOOT、そして NetWare ファイルの標準ソースパス、ターゲットパス、起動パスです。<dest dir name> には NULL 文字列を指定できます。

<conditional copy flag>

値	説明
0 (または指定しない)	ファイルは無条件にコピーされます。
1	ターゲットファイルが存在しない場合、コピーを実行します。
2	ターゲットファイルが存在しない場合、コピーを実行します。存在する場合には、それをユーザに知らせます (バージョンチェックは行われません)。
3	ターゲットファイルが存在しないか、ソースファイルのバージョンがターゲットファイルのバージョンよりも新しい場合、コピーを実行します。
4	ターゲットファイルが存在しないか、ソースファイルのバージョンがターゲットファイルのバージョンよりも新しい場合、コピーを実行します。これ以外の場合は、ユーザにそれを通知します。
5	ターゲットファイルが存在する場合、コピーを実行します (バージョンチェックは行われません)。
6	ターゲットファイルが存在し、ソースファイルのバージョンがターゲットファイルのバージョンよりも新しい場合、コピーを実行します。

値	説明
7	ターゲットファイルが存在し、ソースファイルのバージョンがターゲットファイルのバージョンよりも新しい場合、コピーを実行します。これ以外の場合は、ユーザにそれを通知します。
8	ターゲットファイルが存在しないか、ソースファイルのバージョンがターゲットファイルのバージョンよりも新しい場合、コピーを実行します(新しいファイルに更新します)。
9	ターゲットファイルが存在し、ソースファイルのバージョンがターゲットファイルのバージョンよりも新しい場合にのみ、コピーを実行します(新しいファイルに更新します)。

例

```
CopyFile 0, 0, 1, 0, 0, input, *.* , 'NETWARE-1', "NW [1]",
output, '', '', ''
```

これは [143 ページの「GetPath」](#) の例の続きです。まず、フロッピーディスク NW [1] を要求するメッセージが表示されます。フロッピーディスクをセットすると、ボリュームラベル NETWARE-1 が存在するかどうかのチェックが行われます。フロッピーディスク上の全ファイルが、ユーザが output として指定したサブディレクトリにコピーされます。

CopyFloppyImage

構文

```
CopyFloppyImage <floppy type flag>, <diskette name>, <src var name>, <src file spec>, <src vol name>, <src descr>, <dest var name>, <dest dir>, <dest vol name>, <dest descr>
```

説明

CopyFloppyImage コマンドを使用して、フロッピーディスクのイメージファイルを指定したドライブ(ターゲットパスはフロッピーディスクドライブを指定する必要があります)にセクタ単位でコピーします。

変数	説明
<floppy type flag> (0 1)	0 に設定すると、3.5 インチ高密度ドライブが指定されます。1 に設定すると、5.25 インチ高密度ドライブが指定されます。
<diskette name>	フロッピーディスクの外部ラベルです。

例

```
GetPath, dst, 2, 'A:', ''  
CopyFloppyImage 0, "Disk 1", 3.5¥WSDOS_1.IMG, '', '', dst,  
'', '', ''
```

ソースパスで指定されたフロッピーディスクイメージが、指定されたドライブのフロッピーディスクにコピーされます。

Delay

構文

```
Delay <delay in seconds>
```

説明

呼び出しプロセスに制御権を返す <delay in seconds> 秒前に、制御権を開放します。負の値が指定された場合、遅滞時間は 0 から <delay in seconds> の絶対値までのランダムな値に設定されます。

例

```
Delay '-10'
```

この例の場合、遅滞時間は 0 秒から 10 秒までのランダムな値になります。

DiskReset

構文

```
DiskReset <var name>
```

説明

DiskReset コマンドを使用すると、DOS は <var name> フロッピードライブでディレクトリを再スキャンします。NetWare に制御権があるとき、ドライブ変更割り込みは無効になるため、このコマンドが必要になります。

例

myDir が A:¥に対応しているものとする、

```
DiskReset myDir
```

ドライブ A:¥が再スキャンされます。

Dismounted CD

構文

```
DisMountCD <CD Volume Name>
```

説明

DisMountCD コマンドは、PromptForCD コマンドと対で使用します。PromptForCD コマンドを使用してマウントした CD ボリュームのマウントを、このコマンドを使用して解除します。

例

```
DisMountCD 'CDVolumeName'
```

Display_Text_File

構文

```
Display_Text_File <Path>, <Filename>, <Completion Code>
```

説明

Display_Text_File コマンドを使用すると、ASCII 形式のテキストファイルが表示されます。ユーザは自由にテキストをスクロールして、ファイルの内容を読むことができます。スクロールバーが必要な場合には、自動的に表示されます。ファイルの最大サイズは 30KB です。

例

```
GetPath sys, 1, 'SYS:', ''  
Display_Text_File sys, "license.txt", ccode
```

正常に終了した場合、completion code は 0 を返します。0 以外の値は、エラーです。

Display

構文

```
Display <0|1|2>, "...<text>..."
```

説明

Display コマンドを使用すると、最初の引数が 1 の場合、警告音と共にメッセージが表示されます。最初の引数が 2 の場合は、メッセージはコピーステータスとして表示されます。

例

Display 0, "Product XYZ installation is complete."

テキストが表示され (警告音は鳴りません)、ユーザは <Enter> を押して先に進むことができます。

DSInst

構文

```
DSInst <time zone name>, <time server type>, <daylight flag>, <daylight start>, <daylight end>, <daylight offset in seconds>, <tree name>, <tree address>, <container object name>, <admin name>, <admin password>, <replica flag>, <upgrade bindery flag>, <root server flag>
```

説明

DSInst コマンドを使用して、デフォルトの時刻同期でディレクトリをインストールします。

変数	説明
<time zone name>	タイムゾーン名 (システム SET パラメータの働きをします)。
<time server type>	タイムサーバタイプ (システム SET パラメータの働きをします)。single、reference、primary、secondary。
<daylight flag>	1: このタイムゾーンには夏時間があります。 0: このタイムゾーンには夏時間がありません。
<daylight start>	「set parameter」で使用する夏時間開始文字列。「First Sunday of April at 2:00:00 a.m」などと設定します。
<daylight end>	「set parameter」で使用する夏時間終了文字列。「Last Sunday of October at 2:00:00 a.m」などと設定します。
<daylight offset in seconds>	通常の場合は 3,600 秒 (1 時間) です。夏時間を使用しない場合は 0 になります。
<tree name>	DS ツリー名。

変数	説明
<tree address>	ツリーの SAP サーバの内部 IPX アドレス。
<container object name>	コンテナのフル DN。
<admin name>	Admin オブジェクト (コンテナに対してスーパーバイザ権を持っている必要があります) のフル DN。
<admin password>	<admin name> に対応するパスワード。
<replica flag>	1: サーバにレプリカをインストールします。 0: インストールしません。
<upgrade bindery flag>	1: バインダリが存在する場合、これをアップグレードします。0: インストールしません。
<root server flag>	1: これを新しいツリーにします。0: 新しいツリーにしません。

例

```
DSInstMST7MDT, SECONDARY, 1, '(APRIL SUNDAY FIRST 2:00:00 AM)', '(OCTOBER SUNDAY LAST 2:00:00 AM)', 3600, URSA, FACE3234, 'O=Novell', 'CN=Admin.O=Novell', '', 1, 1, 0
```

このサーバには、タイムサービスが既存のツリー名 URSA を使用するセカンダリサーバとしてインストールされます。ディレクトリサービスは、このサーバがコンテナ O=Novell にあるものとしてインストールされます。レプリカがインストールされ、バインダリはアップグレードされます。

EraseFile

構文

```
EraseFile <directory flag>, <var name>, <file spec>, <vol name>, <vol descr>
```

説明

EraseFile コマンドを使用すると、<file spec> に指定したファイルまたはディレクトリが再帰的に消去されます。ワイルドカードが使用できません。NetWare では、どのような属性のファイルでも削除できます。DOS では、一般的なファイルのみ削除できます。

重要: このコマンドを使用するときは、目的のデータだけを削除するように注意してください。

<directory flag> が 1 の場合、<file spec> にはディレクトリ名を指定する必要があります。この場合、ディレクトリの中身が削除されますが、ディレクトリ自体は削除されません。

例

myDir がディレクトリ VOL1:¥ に当たる場合、

```
EraseFile 1, myDir, '', '', ''
```

ディレクトリ VOL1:¥ の中身が削除されます。

EditNCF

構文

```
EditNCF <ncf path var>, <ncf file name>, <backup ext>, <ccode>
```

説明

EditNCF コマンドを使用して、指定した NCF ファイルを次のように編集します。

- ◆ NCF ファイルの冒頭に、EditNCF_ADDLINE リストで指定した行をすべて書き込みます。
- ◆ EditNCF_ADDLINE リストに一致する行をすべて削除します。
- ◆ EditNCF_KEYSTRINGS リストのキー文字列を含む行を、すべてコメント化します。
- ◆ その他の行は変更されずにコピーされます。

例

```
GetPath startup, 1, 'C:¥NWSERVER', ''  
EditNCF_KEYSTRING ''  
EditNCF_KEYSTRING 'PK411.NLM'  
EditNCF startup, 'startup.ncf', 'bak', ccode
```

C:¥NWSERVER¥STARTUP.NCF の内部で文字列「PK411.NLM」を含む行が検索され、EditNCF コマンドによりコメント化されます。ccode の値の意味は次のとおりです。

- 0 - 成功
- 1 - 重複した拡張子
- 2 - オープンエラー

- 3 - 読み込みエラー
- 4 - 書き出しエラー
- 5 - バックアップ拡張子エラーに対する NCF
- 6 - NCF エラーに対する Tmp

EditNCF_ADDLINE

構文

```
EditNCF_ADDLINE <LineToBeAdded>
```

説明

EditNCF_ADDLINE コマンドを使用して、EditNCF コマンドで編集中のファイルの先頭に追加する行のリストにテキスト行を追加します。

例

```
EditNCF_ADDLINE ''  
EditNCF_ADDLINE 'LOAD PK411.NLM'  
EditNCF startup, 'startup.ncf', 'bak', ccode
```

1 行目で EditNCF_ADDLINE リストをクリアします。2 行目で、STARTUP.NCF ファイルの先頭に文字列「LOAD PK411.NLM」を追加します。

EditNCF_KEYSTRINGS

構文

```
EditNCF_KEYSTRINGS <keystring>
```

説明

EditNCF_KEYSTRINGS コマンドを使用して、EditNCF コマンドでコメント化する行を指定する際に使用する文字列のリストを定義します(いずれかの文字列を含む行がコメント化されます)。

注: リストの最後のエントリは NULL("") にしておく必要があります。このコマンドは複数回使用できます。コマンドが実行されるごとに、その前に定義したリストが置き換えられます。

例

```
EditNCF_KEYSTRINGS ''  
EditNCF_KEYSTRINGS 'PK411.NLM', 'ADTRSTFX', 'AUTODUMP',  
  'CLSSCRFX', 'EAPURGFX', 'EVNTRPFX', 'GETDIRFX', ''  
EditNCF startup, 'startup.ncf', 'bak', ccode
```

1 行目で EditNCF_KEYSTRINGS リストをクリアします。2 行目で、STARTUP.NCF でコメント化する行を決定する文字列を追加します。

ExtractVersionNumbers

構文

```
ExtractVersionNumbers <version string>, <major var name>,  
<minor var name>, <revision var name>
```

説明

ExtractVersionNumbers コマンドを使用すると、バージョン文字列が構文解析され、メジャーバージョン番号、マイナーバージョン番号、リビジョン番号が整数値として返されます。バージョン文字列の構文解析では、数字以外の文字で始まる文字列は無視されます。バージョン文字列のメジャー、マイナー、リビジョンの値が変数に代入されます。バージョン文字列にリビジョン番号が含まれない場合、0 が返されます。リビジョン番号が数字以外の値である場合、数字のリビジョン番号が返されます (A = 1、B = 2 など)。

例

```
SetVar version, "v2.11"
```

```
ExtractVersionNumbers version, major, minor, revision
```

変数 version には文字列「v2.11」が収められます。ExtractVersionNumbers コマンドにより、変数 major に値 2 が、変数 minor に値 11 が返されません。変数 revision には 0 が返されます。

FileVersion

構文

```
FileVersion <src var name>, <src file spec>, <src vol name>,  
<src descr>, <Module major number>, <Module minor number>,  
<Module rev number>, <Module description>, <return code>
```

説明

FileVersion コマンドを使用すると、返されたコードが 0 である限り、NetWare Loadable Module の説明文字列 (NLM、HAM、CDM、LAN など) に加えて、メジャー、マイナー、リビジョン番号が返されます。

重要: このコマンドは NetWare Loadable Module に対してのみ働きます (.EXE や .DLL ファイルに対しては働きません)。

例

```
GetPath1, 1, 'SYS:¥¥SYSTEM'  
File Version path1, 'DS.NLM', '\\,\\', DSMajor, DSMinor,  
DSRev, DSDesc, DSCode
```

GetDOSServer

構文

```
GetDOSServer <var name>
```

説明

GetDOSServer コマンドを使用すると、SFT* III サーバのデフォルト DOS サーバ番号が <var name> に返されます。

例

```
GetDOSServer DOSServer
```

変数 DOSServer の値は、0 または 1 が返されます。それ以外の値の場合、サーバでは SFT III が稼動していません。

GetPath

構文

```
GetPath <var name>, <path type>, <default>, <prompt>, [base  
var name]
```

説明

GetPath コマンドを使用して、プロンプト画面からユーザにパスを入力させることができます。prompt 文字列が表示されます。%s の部分は (C 言語の印刷フォーマットに似ています) <default> 文字列で置き換えられます。

プロンプトには設定を変更する場合のキー操作の説明も表示されます。末尾のバックスラッシュはパスが表示される前に常に削除されます。<var name> には、後で CopyFile コマンドに利用する変数名を指定します。<prompt> を NULL にした場合、プロンプトは表示されません。そのパス変数に設定されます。<base var name> を指定した場合、これは新しい変数の基準として使用されます (リモート接続番号が保持される、など)。

<path type>

値	説明
1	どのようなパスも指定できます。
2	フロッピーディスク (リモートを含む) のみ指定できます。
3	DOS (リモートを含む) のみ指定できます。
4	NetWare ローカルパスのみ指定できます。
5	ローカルのフロッピーディスクのみ指定できます。

例

```
GetPath input, 1, 'A:', "Files will be copied from %s¥¥."
```

次のプロンプトが表示されます。

```
Files will be copied from A:¥
```

```
Press <F3> to specify a different path.
```

```
Press <F4> to specify a remote path.
```

```
Press <Enter> to continue.
```

Goto

構文

```
Goto <label_name>
```

説明

Goto コマンドを使用すると、「Label <label_name>」コマンドが最初に現れる行に実行位置が移動します。

ラベルの適用範囲は必ずファイルセットに対してローカルです。そのため、Goto ステートメントでは現在のファイルセット以外のファイルセットに実行位置を移すことはできません。

例

```
Goto Done  
Label Done
```

ステートメント「Goto Done」により、「Label Done」に実行位置が移動します。

GotolfEqual

構文

```
GotoIfEqual <larg1>, <arg2>, <label_name>
```

説明

GotoIfEqual コマンドを使用すると、<arg1> の値が <arg2> の値に等しいとき、ラベル <label_name> が最初に現れる行に実行位置が移動します。<arg1> と <arg2> には、どちらも整数値を指定する必要があります。

ラベルの適用範囲は必ずファイルセットに対してローカルです。そのため、Goto ステートメントでは現在のファイルセット以外のファイルセットに実行位置を移すことはできません。

例

```
GotoIfEqual 0, 1, Error  
Goto Done  
Label Error
```

値 0 と 1 は等しくないため、実行位置は「Label Error」に進みません。

注: GotoIfEqual コマンドは整数値を比較します。文字列は比較しません。

GotolfNEqual
GotolfGreater
GotolfLess
GotolfGrEqual
GotolfLsEqual

構文

```
GotoIfNEqual <arg1>, <arg2>, <label_name>  
GotoIfGreater <arg1>, <arg2>, <label_name>  
GotoIfLess <arg1>, <arg2>, <label_name>  
GotoIfGrEqual <arg1>, <arg2>, <label_name>  
GotoIfLsEqual <arg1>, <arg2>, <label_name>
```

説明

これらのコマンドは [GotoIfEqual \(145 ページ\)](#) とほぼ同じ働きを持ちます。異なる点は、それぞれ次の条件でプログラムが分岐することです。

<arg1> と <arg2> が等しくない場合
<arg1> が <arg2> よりも大きな値を持つ場合
<arg1> が <arg2> よりも小さな値を持つ場合

<arg1> が <arg2> と同じか、より大きな値を持つ場合
<arg1> が <arg2> と同じか、より小さな値を持つ場合

ラベルの適用範囲は必ずファイルセットに対してローカルです。そのため、Goto ステートメントでは現在のファイルセット以外のファイルセットに実行位置を移すことはできません。

注: GotoIf* コマンドは整数値を比較します。文字列は比較しません。

Is_NLM_Active

構文

```
Is_NLM_Active <NLM Name>, <Completion Code>
```

説明

Is_NLM_Active コマンドを使用すると、ロード済みのモジュールのリストが検索され、NLM がロードされているときは 1 が、NLM がメモリにないときは 0 が返されます。

例

```
Is_NLM_Active "Monitor.nlm", ccode
```

IsSubString

構文

```
IsSubString <string>, <substring>, <index>
```

説明

IsSubString コマンドを使用すると、<substring> が実際に <string> に含まれている場合は <string> の 0 から始まる <index> が返されます。含まれていない場合には、<index> の値は -1 になります。

例

```
IsSubString 'Little Miss Muffet sat on', 'Miss Muffet', index
```

この例では、<index> には 7 が返されます。

Label

構文

```
Label <label_name>
```

説明

Label コマンドは、<label name> を指定した Goto ステートメントのターゲットとしてのみ働きます。

重要: ラベルの適用範囲は必ずファイルセットに対してローカルです。そのため、Goto ステートメントでは現在のファイルセット以外のファイルセットに実行位置を移すことはできません。

例

```
Goto Done  
Label Done
```

ステートメント「Goto Done」により、「Label Done」に実行位置が移動します。

LangVar

構文

```
LangVar <default>, <lang var>, <src var dir name>, <src vol name>, <src descr>
```

説明

LangVar コマンドを使用して、変数を言語番号に設定します。ディレクトリ <src var dir name> から、現在のサーバの言語番号と同じ名前を持つサブディレクトリを検索します。そのサブディレクトリが検出されると、<lang var> の値がその数値に設定されます。検出されない場合には、<lang var> は <default> に設定されます。

例

現在の言語番号を 6 とします。

```
LangVar 4, lang, NWSRC, '', ''
```

このコマンドにより、ソースインストールディレクトリで「6」という名前のディレクトリが検索されます。このディレクトリが検出されると、変数 lang は 6 に設定されます。

Menu

構文

```
Menu <var name>, <Prompt>, <# of menu options>, <default menu option>, <first choice>, <first value>, <second option>, <second value> [<third option>, <third value>] [<fourth option>, <fourth value>]
```

説明

Menu コマンドを使用すると、ヘッダ領域に *<Prompt>* と表示されたウィンドウが現れます。ヘッダの下スクロール領域に *<choices>* が表示されます。*<# of menu options>* には、1 から始まる数を指定します。*<default menu option>* には、0 から始まる数を指定します。コマンドは、最後の値の後にカンマを入れずに終わります。

例

```
Menu done, "Are you ready to continue?", 2, 0,
"yes", 1,
"no", 0
```

この Menu コマンドにより、「Are you ready to continue?」と表示されたボックスが画面に表示されます。ボックスの下に、「Yes」と「No」の選択肢が表示されます。「Yes」はデフォルトの選択肢として強調表示されています。選択を行うと、その値が変数に与えられます。値は整数である必要があります。

NLMExec NLMExecIO

構文

```
NLMExec <block flag>, <command line>
```

説明

NLMExec コマンドを使用して、*<command line>* に指定した NLM を実行します。*<block flag>* が 1 の場合、NLMExec コマンドは NLM の実行が終了するまで待ち、その後再開します。NLMExec は、外部コマンドにおける **Exec (125 ページ)** コマンドです。NLMExecIO コマンドは、NetWare SFT III サーバのデフォルト DOS サーバのコマンドラインを実行する以外は NLMExec と同じです。詳細については、**152 ページの「SetDOSServer」** を参照してください。

例

NLMExec 1, PINSTALL

このコマンドにより、PINSTALL.NLM が実行されます。コマンドはプログラムの完了を待ちます。

Partitions

構文

Partitions <delete flag>

説明

Partitions コマンドを使用すると、利用可能なすべてのデバイスで NetWare パーティションを作成できます。<delete flag> が 1 の場合、起動パーティション以外の既存のパーティションはすべて削除されます。<delete flag> が 0 の場合には、そのまま残されます。デフォルトの規則 (107 ページの「@DeletePartition」を参照してください) に従い、パーティションのサイズは最小で 1MB です。

例

DOS (アクティブ) パーティションと NetWare 286 パーティションを持つ既存のデバイスに、次のコマンドを使用します。

Partitions 1

NetWare 286 パーティションが削除され、空き領域に NetWare パーティションが作成されます。

PromptForCD

構文

PromptForCD <CD Volume Name>, <seconds to mount>

説明

PromptForCD コマンドは、DisMountCD コマンドと対で使用します。PromptForCD コマンドを使用すると、プログラムは <CD Volume Name> という名前の CD を CD-ROM ドライブに挿入するように要求するメッセージを表示します。その後、<seconds to mount> に指定する時間内で CD ボリュームをマウントしようと試みます。

例

PromptForCD 'CD 1', 30

Quit

構文

```
Quit
```

説明

Quit コマンドを使用すると、その位置でスクリプトの処理が終了します。それ以降の部分が処理されることはありません。

例

```
GotoIfEqual {variable1}, {true}, Continue_On  
Quit
```

Label Continue_On

ReadProductRecord

構文

```
ReadProductRecord <productID>, <recordtype>,  
<recorddatavarname>, <cocode>
```

説明

ReadProductRecord コマンドを使用すると、*<productID>* と *<recordtype>* に指定した値と一致する製品データベースのレコードが読み込まれ、対応するデータが返されます。このコマンドは ProductRecord コマンドと対で使用します。レコードタイプの詳細については、[125 ページの「ProductRecord」](#)を参照してください。

例

```
ReadProductRecord MYPROD, 0, version, cocode
```

このコマンドにより製品データベースが検索され、製品「MYPROD」に対応する値が *<version>* に返されます。

Read_Var_File

構文

```
Read_Var_File <path>, <filename>, <completion code>
```

説明

Read_Var_File コマンドを使用すると、filename に指定したファイルの内容が読み込まれ、スクリプトの処理に利用する変数を作成します。このファイルは次のような内容の ASCII フォーマットファイルです。

```
「Variable1=true」  
「Variable2=false」  
「Variable3=Servername」
```

例

```
Read_Var_File "sys:system", "varfile.txt", ccode
```

注: ccode にはファイルオープンステータスが返されます。0 が成功、その他の値はエラーを表します。左側の変数の先頭または末尾にスペースが置かれると、そのスペースは変数名の一部として扱われるため、この変数を参照する際にスペースを含めた変数名を指定する必要が生じます。

SetDir

構文

```
SetDir <var name>, <relative dir>, <vol name>, <vol descr>,  
<attributes>, <0|1>, <rights>
```

説明

SetDir コマンドを使用して、[GetPath \(143 ページ\)](#) コマンドで取得した <var name> に従い、ディレクトリを作成します (同じ名前の既存のディレクトリが存在しない場合)。値 <relative dir> には NULL を指定できません。<attributes> は、ディレクトリを作成するときに使用する属性を表します。0 が通常の属性です。引数 <0|1> が 1 の場合、サーバコンテナオブジェクト (または Everyone) にはディレクトリにアクセスする権利 <rights> が与えられます。

例

myDir がディレクトリ VOL1:¥ に当たる場合、

```
SetDir myDir, DOC, '', '', 10, 1, 0
```

ディレクトリ VOL1:¥DOC が作成され、このディレクトリにアクセスする権利が利用可能なユーザ全員に与えられます。

SetDOSServer

構文

```
SetDOSServer <engine number>, <ccode>
```

説明

SetDOSServer コマンドを使用して、デフォルト DOS サーバに設定する <engine number> を指定します (有効な値は 0 と 1 です)。OS API で使用するデフォルトサーバが設定されます。

注: 「DiskReset」と「GetPath」は、最初に DOS サーバを目的に応じて設定することにより、特定の IO エンジンを対象とするように設定できます。これにより、パス変数を特定の IO エンジンに本質的にマッピングできるようになります。これ以降、デフォルト DOS サーバが何に設定されているかに関係なく、そのパス変数は指定した IO エンジンに関連付けられます。その結果、パス変数を使用するコマンドはすべて、デフォルトではなくパス変数に関連付けられた IO エンジンをターゲットにします。

例

```
SetVar IOEngineNumber, 0  
SetDOSServer IOEngineNumber, ccode
```

サーバのデフォルト IO エンジン 0 が、デフォルト DOS サーバに設定されます。ccode の値は、成功のときは 0、失敗のときは -1 になります。

SetLConfigLang

構文

```
SetLConfigLang <value>
```

説明

SetLConfigLang コマンドを使用すると、サーバ起動ディレクトリで LCONFIG.SYS ファイルが検索され、デフォルトサーバ言語 ID 番号が <value> に変更されます。

例

```
SetLConfigLang 9
```

LCONFIG.SYS ファイルに記述されているデフォルトサーバ言語 ID 番号が 9 (日本語) に変更されます。

SetVar

構文

```
SetVar <variable name>, <variable value>, [<Prompt>]
```

説明

SetVar コマンドを使用して、名前 *<variable name>* を持つ変数に、文字列値 *<variable value>* を与えます。値が存在しない場合は、作成されます。文字列値の長さは 127 文字以下に設定してください。

例

```
SetVar message, "Hello World!"
```

このコマンドを実行すると、「message」という名前の変数が作成され、値として文字列「Hello World!」が与えられます。

注: Prompt オプションは、バージョンが 3.25 以上の場合にのみ利用できます。

SGotolfEqual
SGotolfNEqual
SGotolfGreater
SGotolfLess
SGotolfGrEqual
SGotolfLsEqual

SGotoIf コマンドは GotoIf コマンドと同じオプションを持ちます。SGotoIf コマンドでは整数値の比較ではなく文字列の比較が行われます。

SpaceCheck

構文

```
SpaceCheck <path var name>, <value>
```

説明

SpaceCheck コマンドを使用すると、*<path var name>* が検索されます。一致する NetWare ボリュームが検出されると、そのボリュームの大きさが *<value>* バイト以上かどうか、そしてそのボリュームに *<value>* バイト以上の空き領域があるかどうかチェックされます。ボリュームの大きさが足りない場合、インストールは中止されます。空き領域が十分でない場合には、ユーザに警告を表示し、インストールを続行します。

例

srcVar が VOL1:¥FILES に対応するとすると、

```
SpaceCheck srcVar, 1000000
```

ボリューム VOL1: に 1,000,000 バイトの空き領域があるかどうかをチェックされます。

注:バージョン 3.25 以前の ICMD.NLM は、DOS ドライブでの SpaceCheck をサポートしていません。DOS ドライブオプションは、これ以降のバージョンからサポートされます。

SrchNCF

構文

```
SrchNCF <ncf path var>, <ncf file name>, <keystring>,  
<foundline var name>
```

説明

SrchNCF コマンドを使用すると、.NCF ファイルの内部で <keystring> に一致する部分文字列を含む行が検索されます (大文字と小文字は区別されません)。目的の行が検出されると、その行のテキストが返されます。検出されなかった場合には、変数 <foundline var name> は空になります。

注:エラーが発生した場合には (無効なファイル名、読み込みエラーなど)、未検出の場合と同じ値が返されます。このコマンドは [EditNCF \(140 ページ\)](#) を呼び出す前に使用することを前提にしています。EditNCF コマンドはより詳細な完了コードを返すため、必要に応じた対応を取ることができます。

例

```
GetPath sys, 1, 'SYS:¥¥', ''  
SrchNCF sys, 'SYSTEM¥¥AUTOEXEC.NCF', "Load Monitor", ccode
```

SrchNCF コマンドにより、SYS:¥SYSTEM¥AUTOEXEC.NCF ファイルの内部で文字列「Load Monitor」が検索され、検出された場合には ccode にその行番号が返されます。

ValueSet ValueAdd

構文

```
ValueSet <var name>, <value>  
Value Add <var name>, <value>
```

説明

ValueSet コマンドを使用して、変数 <var name> の数値を設定します。
ValueAdd コマンドを使用すると、<var name> の数値に指定した値が加算されます。

例

```
ValueSet srcVar, 1
```

変数 srcVar の値が 1 に設定されます。srcVar が存在しない場合には、作成されます。

Volumes

構文

```
Volumes <minimum vol SYS: size in sectors>
```

説明

Volumes コマンドを使用すると、サーバにボリュームが作成され、マウントされます。<minimum volume SYS: size in sectors> (1 セクタ = 512 バイト) 以上の容量を持つ最初のデバイスに、ボリューム SYS: が作成されます。そしてその他の各デバイスに 1 つ、「VOL1」「VOL2」……という名前のボリュームが作成されます。

例

容量 50MB、1 つの NetWare パーティションがあるがボリュームはない既存のデバイスに対して、次のコマンドを実行します。

```
Volumes 51200; 25 MB minimum
```

このコマンドにより、デバイス上にボリューム SYS: が作成され、マウントされます。NetWare ボリュームの作成とマウントの詳細については、『Volume Management API』を参照してください。

Write_Var_File

構文

```
Write_Var_File <path>, <filename>, <varname>, <var value>,  
<completion code>
```

説明

Write_Var_File コマンドを使用すると、「パス/ファイル名」の形で filename に指定したファイルに、varname と var value が書き込まれます。このファイルは次のような内容の ASCII フォーマットファイルです。

```
「Variable1=true」  
「Variable2=false」  
「Variable3=Servername」
```

例

```
Write_Var_File "sys:system", "varfile.txt", "Variable1",  
"true", ccode
```

注: ccode にはファイルオープンステータスが返されます。0 が成功、その他の値はエラーを表します。左側の変数の先頭または末尾にスペースが置かれると、そのスペースは変数名の一部として扱われるため、後でこの変数を参照する際にスペースを含めた変数名を指定する必要があります。指定した名前のファイルが存在しない場合には、そのファイルが作成されます。その後、varname と var value が書き込まれます。ファイルが存在する場合には、ファイルの内容の末尾に varname と var value が付け加えられます。

外部コマンドのプログラミングインタフェース

外部コマンドのプログラミングインタフェースには、次に示すような関数があります。

重要：これらの関数には ICMD.NLM のバージョン 2.18 以上が必要です。

ICMDSetVar

ICMDSetVar 関数は、スクリプトの変数の値をプログラムで設定する際に使用します。

関数

```
int ICMDSetVar (char *variableName, char *variableValue)
```

**variableName*: 設定する変数の名前へのポインタ

**variableValue*: 設定する変数の値を表す文字列へのポインタ

返される値

成功した場合は 0 が、成功しなかった場合には 0 以外のエラーコードが返されます。

説明

ICMDSetVar は、ICMD.NLM からエクスポートされた関数であり、別の NLM から (阻止 NLMExec コマンド内などで) 呼び出すことができます。この関数により、NLM は ICMD.NLM が実行しているスクリプト内の変数を設定できるため、このスクリプトと通信を行い、制御フローを変更したりできます。

例

MYNLM.NLM に次のようなコードが含まれ、

```
ICMDSetVar("mynlmvar", "hello world"); exit();
```

スクリプトが次のように記述されている場合、

```
NLMExec 1, mynlm
```

```
Display 0, "Information: %{mynlmvar}"
```

次のポップアップテキストボックスが表示されます。

```
Information: hello world
```

ICMDGetVar

ICMDGetVar 関数は、スクリプトの変数の値を取得するために使用します。

関数

```
int ICMDGetVar (char *variableName, char *variableValue)
```

*variableName: 変数の名前へのポインタ

*variableValue: 変数の値を収めるバッファ (128 バイト以上必要)

返される値

成功した場合は 0 が返されます。成功しなかった場合、または変数 variableName が存在しなかった場合には、0 以外のエラーコードが返されます。

説明

ICMDGetVar は、ICMD.NLM からエクスポートされた関数であり、他の NLM から呼び出すことができます。この関数により、NLM は ICMD.NLM が実行しているスクリプト内の変数を設定できるため、このスクリプトと通信を行い、制御フローを変更したりできます。

例

スクリプトが次のように記述され、

```
SetVar myvar, "Hello"  
NLMExec 1, mynlm
```

MYNLM.NLM に次のようなコードが含まれている場合、

```
char buffer[128];  
ICMDGetVar ("myvar", buffer);
```

バッファに入る値は、NULL で終わる次の文字列になります。

```
"Hello"
```

外部コマンド変数の置き換え

[GetPath \(143 ページ\)](#) コマンドが返す値などの変数は、実行する外部コマンドの引用された文字列内の内側で使用できます。この変数はグローバルです。コマンドプロセッサが置き換えられた場合にのみ、適用範囲が

ら外れます。他の文字列の中でも `%{<var name>}` という表現を使用することにより、変数を明示的に逆参照できます。

変数	説明
NWSERVER	スクリプトを処理しているサーバの名前。
NWSRC	スクリプトが存在するソースパス。
NWDST	ターゲットパス (ここからサーバが起動します)。
NWBOOT	現在のパス (ここからサーバが起動されました)。
NWLANG	言語番号 (4 = 英語など)。
COUNTRY	カントリ ID (DOS カントリ指定子)。
CODEPAGE	コードページ番号 (DOS コードページ指定子)。
OSTYPE	NetWare オペレーティングシステムの種類。 0 - ネイティブ 1 - OS/2 2 - SFT III
LOADERTYPE	NetWare を起動する際に使用するローダの種類。 1 - DOS 2 - OS/2 3 - Windows 3.1
SERVCONFIGTYPE	NetWare サーバの環境設定。 0 - ネイティブ 1 - SFT III I/O エンジン 2 - SFT III MS エンジン
SFTLEVEL	NetWare のアクティブなシステム障害許容レベル。
OSMAJORVERSION	NetWare OS のメジャーバージョン番号。
OSMINORVERSION	NetWare OS のマイナーバージョン番号。
OSREVISION	NetWare OS のリビジョンレベル。

定義済みのものを含め、すべてのパス変数にサブフィールド指定子を `<path var>.<specifier>` の形で指定できます。

<path var>	<specifier>
PATH	実際のパスを表す文字列。
VOL	ディスクボリューム名。
PROMPT	ディスクボリュームプロンプト。
TYPE	パスのタイプ。
SUBTYPE	パスのサブタイプ。
CONN	接続番号 (16 進数値)。
ENGINE	エンジン番号。
TYPE	値： 1 ローカルサーバ 2 リモートサーバ 3 ローカル DOS 4 リモート DOS (RCONSOLE 経由)
SUBTYPE	値： 0 不明 1 フロッピーディスク 2 CD 3 ネットワーク 4 その他

例

```
NLMExec 1, 'Pinstall % {NWLANG} % {NWSRC.CONN}'
```

サーバ言語が英語、NWSRC の接続番号が 5 に設定されている場合、キーボードで入力したかのように、システムコンソールに次の文が現れます。

```
'load PINSTALL.NLM 4 5'
```

インストール NLM コマンドラインオプション

コマンドラインオプションの前に「-」を付けることもできますが、これは不要です。

重要: このオプションを一般的な配布に使用することは想定されていません。このオプションは NetWare インストール NLM にのみ適用できます。「**その他のスイッチ**」については、全バージョンでサポートされる保証はありません。

NetWare インストールのためにユーザが記述するスイッチ

スイッチ	説明
DSREMOVE	DS の絶対的な削除を許可します。
R	ライセンスの置き換えを許可します。

Script Writer のインストールに役立つスイッチ

スイッチ	説明
DELAY	スクリーンを起動する前に、実行中の AUTOEXEC.NCF が終了するのを待ちます。
NOSTATUS	バッチモード時にステータスバーを表示しないようにします。
A=	NNNNNNNN:OOOOOOOOOOO:SSSS または XXX.XXX.XXX。 ソースパス IPX アドレス (16 進形式): N ネットワーク (8 文字): O ノード (12 文字): S ソケット ソースパス IP アドレス (10 進形式): XXX(1 ~ 3 文字)
B=	バッチファイルの指定。
D=	DOS における SERVER.EXE などへのターゲットパス。
E=	エラーファイルの指定。
O=	既存ファイルの上書きフラグ。1: 常に上書き、2: 上書きしない
S=	ソースパス DOS 指定子。

スイッチ	説明
W=	新しいファイルの上書きフラグ。1: 常に上書き、2: 上書きしない

その他のスイッチ

スイッチ	説明
MDEBUG	メモリデバッグ。
TRANSPORT	トランスポート層のタイプ (デフォルトは IPX です)。 IPX TCP UDP
C=	ソースパスリモートコンテキスト。
DS=	NDS 認証の使用の指定。 このコマンドを使用しない場合、接続はバイナリ経由で行われます。
F=	フロントエンドフラグ。 Q 単純化モード T ファイルセットの総数を計算 V 遅滞初期化を抑制 (DELAY) X さらに DS オプションを許可
K=	デフォルトの STARTUP.NCF ファイルの指定。
L=	インストールのモード。
N=	ソースパスリモートサーバの指定。
P=	ソースパスリモートユーザパスワード。
U=	ソースパスリモートユーザ名。
Z=	ソースパスリモートツリー。

NetWare 4.1 リモートインストールラップ

NetWare インストールプログラムを使用すると、本来はリモートインストールができない製品をリモートでインストールすることができます。

- 1 PINSTALL.NLM を実行する前に、関連ファイルをサーバにコピーするラップスクリプトを作成します。

ローカルインストールの場合にも、システムボリュームにスクラッチファイルを収められる容量があることを確認してください。

この例では、フロッピーディスク内のディレクトリ配置は次のようになります。

¥(ルート)

PINSTALL.IPS
PINSTALL.NLM
その他

PINSTALL.IPS の内容は次のとおりです。

```
command icmd
getpath dest, 1, 'sys:system¥¥tmp', "
copyfile 0, 0, 0, 0, 0, NWSRC, '*.*', "", " dest, "", "
; Additional copyfile commands might be needed to copy all diskettes
; See filedata.doc for details.
nlmexec 1, 'sys:system¥¥tmp¥¥pinstall'
erasefile 0, dest, "", "
```

PINSTALL.IPS スクリプトにより、ICMD.NLM がロードされます。パス変数 *dest* を設定すると、すべてのファイルが設定した位置にコピーされ、そこで INSTALL.NLM が実行されます。実行後、ファイルはすべて消去されます。

- 2 INSTALL.NLM をロードします。
- 3 [プロダクトオプション] > [リストにはないプロダクトのインストール] の順にクリックします。
- 4 <F3> キーを押します。
- 5 リモートパスを入力します。

server_name¥vol_name:path

各バージョンで利用できる NetWare インストールコマンド

次の表に、各バージョンで利用できる NetWare インストールコマンドと外部インストールコマンドを示します。

NetWare インストールコマンド

コマンド	NetWare 4.10	NetWare 4.11	NetWare for Small Business	NetWare 5 および NetWare 6
@CDName	X	X	X	X
@DeletePartition	X	X	X	X
@Driver	X	X	X	X
@FileSet	X	X	X	X
@IncludeFile	X	X	X	X
@MessageFile	X	X	X	X
@Other	X	X	X	X
@StartAppObject			X	
@StartSchemaMod		X	X	X
@SyntaxVersion	X	X	X	X
@TimeZone	X	X	X	X
@TranslateModule	X	X	X	X
@Version	X	X	X	X
Command	X	X	X	X
CopyDriverToServer	X	X	X	X
CopyDriverToStartup	X	X	X	X
CopyToServer	X	X	X	X
CopyToStartup	X	X	X	X
Exec	X	X	X	X

コマンド	NetWare 4.10	NetWare 4.11	NetWare for Small Business	NetWare 5 および NetWare 6
ProductRecord	X	X	X	X
RegisterLanguage	X	X	X	X
SaveLanguageFile	X	X	X	X
Spawn	X	X	X	X

NetWare 外部インストールコマンド

コマンド	ICMD.NLM のバージョン			
	2.00	2.18	3.20	3.25
Activate		X	X	X
AppendFile	X	X	X	X
CheckFile		X	X	X
Config	X	X	X	X
Console	X	X	X	X
CopyFile	X	X	X	X
CopyFloppyImage	X	X	X	X
Delay	X	X	X	X
DiskReset	X	X	X	X
Display_Text_File				X
Display	X	X	X	X
DSInst	X	X	X	X
EditNCF			X	X
EditNCF_Addline			X	X
EditNCF_Keystings			X	X
EraseFile	X	X	X	X

コマンド	ICMD.NLM のバージョン			
	2.00	2.18	3.20	3.25
ExtractVersionNumbers			X	X
GetDOSServer			X	X
GetPath	X	X	X	X
Goto		X	X	X
GotoIfEqual		X	X	X
GotoIfNEqual		X	X	X
GotoIfGreater		X	X	X
GotoIfLess		X	X	X
GotoIfGrEqual		X	X	X
GotoIfLsEqual		X	X	X
Is_NLM_Active				X
Label		X	X	X
LangVar	X	X	X	X
Menu		X	X	X
NLMExec	X	X	X	X
NLMExec_IO			X	X
Partitions	X	X	X	X
Quit				X
ReadProductRecord			X	X
Read_Var_File				X
SetDir	X	X	X	X
SetDOSServer			X	X
SetLConfigLang	X	X	X	X

コマンド	ICMD.NLM のバージョン			
	2.00	2.18	3.20	3.25
SetVar	X	X	X	X
SgotoIfEqual		X	X	X
SgotoIfNEqual		X	X	X
SgotoIfGreater		X	X	X
SgotoIfLess		X	X	X
SgotoIfGrEqual		X	X	X
SgotoIfLsEqual		X	X	X
SpaceCheck	X	X	X	X
SrchNCF			X	X
ValueAdd	X	X	X	X
ValueSet	X	X	X	X
Volumes	X	X	X	X
Write_Var_File				X

